



## CSW 公開研究会

### 災害公営住宅自治会等活動実践事例集 地域コーディネーター活動実践事例集

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、被災した住民の生活は災害公営住宅や防災集団移転地区へと移りました。この間、新たなコミュニティの構築に向けた活動が社協等によって進められています。

また、コロナ禍であっても、様々な工夫を重ねて活発的に活動を展開している自治会や地域コーディネーターも多くいます。

こうした中、様々な資源を組み合わせ住民とともに地域づくりに取組む実践を、このたび東北学院大学地域連携センターと宮城県社会福祉協議会との共催により実践事例集として取りまとめ広く皆さまへ発信することになりました。

地域課題等に取組む県内実践事例に学び、更なる地域福祉推進の一助となることを願い編纂するものです。



## — 目 次 —

### ○災害公営住宅自治会活動実践事例編

・コロナ禍における田子西第二市営住宅（復興公営住宅）の取り組み

田子西こだま会 会長 鈴木 るみ子  
社会福祉法人仙台市社会福祉協議会宮城野区事務所

CSW 柳谷 那由美 … 3P

・社会的孤立の象徴と包摂する地域との調整 ー福祉ごみ処理活動をとおしてー

社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 谷 祐輔 … 9P

・孤立死がうまれた地域で小さな範囲の支え合いを一支え合いマップづくりをとおしてー

社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 谷 祐輔 … 15P

・『災害公営住宅のコミュニティ形成支援』

～新たな住民組織の設立および自立運営に向けた取り組み～

錦町東住宅会 会長 松田 美和子  
認定 NPO 法人 つながりデザインセンター 事務局 吉井 隆 … 19P

・みんなの集いの場 ーみんなが笑顔で過ごせる共有時間づくりー

多賀城市八幡沖町内会 菅野 真一  
社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会 菊地 啓 … 23P

・笑顔でつくる日本一のまち

宮城県東松島市 あおい地区会 会長 小野 竹一 … 25P

・なかよしサポート会ができるまで～そっと見守り・ちょこっと声がけ・ちょっとお手伝い～

社会福祉法人山元町社会福祉協議会 生活支援CO 川辺 琴路 … 35P

・おたがいさま -安心して暮らせる住処を目指して-

上浜街道公営住宅 見守り隊 渡邊 紀美子  
社会福祉法人亘理町社会福祉協議会 佐藤 秀憲 … 39P

・『災害公営住宅入居被災者見守り・相談ネットワーク構築事業』

社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会 菊地 顯緩 … 43P

## ○地域コーディネーター活動実践事例編

・わかばやし マスクの下は笑顔プロジェクト

社会福祉法人仙台市社会福祉協議会若林区事務所

CSW 庄子 克彦・杉山 裕子・佐々木 愛 … 49P

・栗原市のお宝集 ー共に支え 共に助け合い 共に生きる地域の創造ー

社会福祉法人栗原市社会福祉協議会第2層生活支援コーディネーター … 55P

・『コロナとさんさん福袋』

社会福祉法人大崎市社会福祉協議会松山支所総務福祉係 菅原 春花 … 67P

・地域コーディネーターの日常 ~世間話から地域づくりへ!ダンベル大作戦始動!~

社会福祉法人蔵王町社会福祉協議会地域福祉係 山家 宗一朗 … 69P

・『わたしの地域の支え合い活動・色麻町の地域力紹介』

-情報発信によるエンパワメント-

社会福祉法人色麻町社会福祉協議会地域福祉推進係 主事 菅原 一杉 … 75P

・勢見ヶ森古墳公園山百合保存会とお達者サロン ~地域コミュニティーを繋ぐ活動~

社会福祉法人大郷町社会福祉協議会

生活支援コーディネーター 千田 まさえ … 79P

・コロナ禍における地域福祉活動の実践事例

社会福祉法人美里町社会福祉協議会 … 85P

・結がもたらす地域づくり～続けること・信じること～ 生活支援コーディネーターが行く!

社会福祉法人南三陸町社会福祉協議会 … 95P

～敬称省略～

# 災害公営住宅自治会等活動事例集

—新たな時代と向き合う知恵を探る—



## 『コロナ禍における田子西第二市営住宅(復興公営住宅)の取り組み』

田子西こだま会 会長 鈴木 るみ子  
仙台市社会福祉協議会 宮城野区事務所  
CSW 柳谷 那由美

### コロナ禍における 田子西第二市営住宅(復興公営住宅)の取り組み

R2.9.30



集会所入口に掲示されたアマビエ

(社福) 仙台市社会福祉協議会  
宮城野区事務所  
CSW 柳谷 那由美

### 田子西第二市営住宅の概要

- ・入居開始 平成27年7月
- ・町内会設立 平成28年4月  
(田子西こだま町内会)
- ・入居世帯数 160世帯  
(令和2年4月現在)
- ・町内会加入率 90%



## 町内会のコミュニティ活動

- ・いきいきサロン 年2回
- ・介護予防運動自主グループスマイル会 月2回
- ・傾聴力フェ (NPO法人傾聴の会) 月1回
- ・ダーツ教室 (広瀬川倶楽部) 月1回
- ・歌う♪こだまの会 (音楽の力による復興センター・東北) 月1回
- ・介護予防教室 (福田町包括センター) 年数回
- ・各種イベント (夏祭り、クリスマス会、防災訓練等)

コロナ禍の影響で3月以降休止  
※月1回の町内清掃は有志で活動継続

## 町内会活動再開のきっかけ

コロナ禍の影響で閉鎖した集会所  
「集会所でみんなでなにかやりたいね」 住民のつぶやき

役員やサロン等参加者の意見を聞く  
「活動再開が中止か、再開するならどの活動にするか」

再開する活動を決め、関係機関に相談  
家庭健康課や地域包括支援センターから助言をもらう

スマイル会と歌う♪こだまの会再開に向けた具体的な話し合い

## 再開にあたり工夫した点（スマイル会）

- ・三密を避ける（床にテープを張り椅子を設置、換気をする）
- ・事前に健康チェック表に体調について記入してもらう。
- ・入室時の手指消毒と健康チェック表の確認。体温測定忘れた方には非接触型体温計で検温記入。
- ・マスク着用。
- ・介護予防体操DVDの活用（大声を出さない）
- ・活動終了後、椅子や室内の消毒（参加者へ協力呼びかけ）

8月11日より再開。

## 再開にあたり工夫した点（歌う♪こだまの会）

- ・三密を避ける（床にテープを張り椅子を設置、換気をする）
- ・事前に健康チェック表に体調について記入してもらう。
- ・入室時の手指消毒と健康チェック表の確認。体温測定忘れた方には非接触型体温計で検温記入。マスク着用。
- ・活動終了後、椅子や室内の消毒（参加者へ協力呼びかけ）
- ・人数制限のため、参加希望は事前申込制とする。
- ・協力団体である「音楽の力による復興センター・東北」との打合せ。
- ・歌手の前に飛沫防止のためのビニールシートを設置。参加者は歌を口ずさむ程度に。

7月21日より再開。



歌う♪こだまの会の活動の様子



歌手の前にビニールシート付衝立設置

マスク着用し、三密をさける

## 活動再開から見えた課題

- 運動自主グループ「スマイル会」の参加者数は、コロナ禍以前よりやや減少だが、事前申込制にした「歌う♪こだまの会」への参加者数が半減。  
申し込み多数で抽選はされるのが嫌。申込を失念した。
- 参加したいが、新型コロナウィルスの感染が怖い。不安なので参加したくないという声。  
お誘いして参加してもらうのが難しい。
- NPO団体など、外部団体の協力を積極的に受け入れていくべきか。  
感染リスクが高くなる？

## コロナ禍の中での再発見

### 今までの活動のやり方への工夫や見直し

- ・今年度役員改選で若い世代が多くなった事とコロナ禍をきっかけに、活動の見直しや工夫をしている。

### 支える側も支えられる側も一緒に

- ・お茶のみ中心のいきいきサロンは休止中。再開には支える側の負担軽減を。
- ・三密対策の準備や片付けはみんなで。一緒にやれる自信がついた。

### ご近所同士の小さなつながりの再発見

- ・ご近所同士でお互いに助け合っている様子が見える。
- ・役員ではないが、環境整備など良いタイミングで手助けしてくれる住民の存在。



「町内会で何かやりたいという声への旗振り役が役員。環境を整える事かな。  
楽しいことやろうという気持ちでね。  
コロナ禍は大変だけど、できることから。」

田子西こだま会 鈴木るみ子会長





# I

## 社会的孤立の象徴と 包摶する地域との調整

social isolation × social community

福祉ごみ処理活動をとおして

令和元年春「地域福祉・生活支援コード」トータル活動報告より

石巻市社会福祉協議会  
蛇田地区担当：谷祐輔

いわゆるごみ屋敷（状態）の片付けを近隣住民の方と共にを行うことにより、安心して暮らせる環境を取り戻しつつ、その過程で社会との接点をつくっていく事を意識した活動の報告になります。

### 0. 活動場所と関係者(機関)

#### ■活動場所

新西前沼第一復興公営住宅(あゆみ野町内会)

#### ■関係者(機関)

部屋主( A氏)、あゆみ野住民、復興公営住宅住民、民生委員児童委員、市保護課  
市包括ケアセンター、市健康推進課、福祉協力員、地域福祉課、CSC

### 1. 関わりのはじまり

#### ■訪問・面会

市保護課より、心配な方がいるので一緒に様子を見に行ってほしいとの相談あり。同行すると生活ゴミと見られるものが足の踏み場もなくひろがり、何層にも積み重なっている状態であった。

ごみ屋敷状態になった因子としては、失職からの自暴自棄をはじめ、金銭管理面を見ても、生活に必要な光熱費等の支払いより、飲酒や雑誌購買を優先させるという気質が見てとれた。しかし、なによりも失職以降、人との情緒的な繋がりをほぼ失くしていた、という状況がひとつの大きな要因だと感じたため、当人の「今の状態を抜け出したいどうにか片付けたい。」という思いの基、ごみ処理という機会を通じ、社会や地域との接点を調整していきたいと考えた。まずは本人の同意を得た上で、一緒に活動してくれる地域の方を探すこととした。



## 2.理解と共感

### ■福祉ごみ処理活動 事前打ち合わせ

一緒にごみ処理をしてくれる地域の方と共に、事前打ち合わせを行なった。事前に意見を交わす事によってごみをどう片付けるかという実際の段取りを話しながらも、人がごみ屋敷状態に陥っていくという状況に対しての【理解と共感】を皆で共有することができた。その中で、健康を気に掛ける声や、金銭管理面を心配する声、「人との繋がりをつくっていかなければまた元に戻るかもしれない。」というような地域社会との接点をつくる必要性を定期してくれれる声が地域住民からあがつた。

また、「分別したくなるごみ箱を作つて日々声掛けしよう。」や「きれいに片付いたら家にある布団をもつていこう。」といった声も聞かれた。このような、地域が持つ“ひとりの課題を包摂的に気に掛け手を差し伸べる温かさ”は、複合的かつ重層的な課題を解決していくためには非常に大切な力だと改めて感じた。



### ■打ち合わせで共有、確認した事項

#### ① 部屋主(A氏)の意志・想い

- 「今の状況をどうにかしたい」「一人ではなかなか取り組めなかつた」
- 「どうか助けてもらえないだろうか」

#### ② 作業日について

- なるべく1日で終わらせてあげたい
- 次のステージに早く進めるように

#### ③ 準備物について(ヘルパーさんに助言もらう)

- ごみ袋30ℓ×150枚 40ℓ×40枚
- ゴム手袋(ディスポ100枚)なるべく厚手
- 防塵マスク
- 掃除用洗剤
- ごみ分別表
- ごみカレンダー
- 蠅取りリボン
- バケツ
- 長靴
- 雑巾
- スポンジ 等々

#### ④ 目的について

- 安心して暮らせる環境を共につくる
- ごみ処理の過程で社会との接点をつくる
- もう一度自分らしく生きてもらうためのきっかけとする
- 部屋主(A氏)の命と安全の確保

## ⑤ 「ごみ屋敷」という課題について

- ・社会の変化と共に、ごみを片付けられない人の「ごみ屋敷」問題が表面化している。
- ・孤独死同様に人との繋がりを失っているためごみの撤去だけでは問題は解決しない。
- ・社会や地域との人間関係を取り戻し、孤独を解消するためには、皆で共通課題として取り組む必要がある。

ごみ屋敷 = 社会的孤立の象徴

何年も人が訪ねてこなかった証

- ・体が弱ってごみを運べなくなても「助けて」と言えずごみを溜めてしまった人
- ・大切な家族を亡くした喪失感から心を埋めるようにごみを溜めるようになった人
- ・失職、リストラから自暴自棄な生活状態に陥り片付けをする気持ちすら起きない人
- ・うつ状態や認知症、障害をもった人

誰もが同じ状況に立たされたら 同じようになるかもしれない

## ⑥ 打ち合わせの際の住民の声

- ・なんとなく気づいていたけれどこれまで関わるきっかけがなかった。
- ・人生は一瞬で何かが狂い始めることがある。それは自分たちもそう。
- ・難しい課題を地域住民で解決できたら石巻が明るくなっていくと思う。きっとこういう部分から町全体が優しくなっていく。

## ⑦ さいごに

ひとつひとつ、小さな選択の失敗や上手くいかない事の積み重ねが苦しく出口の見えないこの状態です。これからは楽しいことや幸せに向かう積み重ねが出来るよう皆でサポートしていければ。

## 3. 福祉ごみ処理活動 当日

### ■本人も交えてみんなで昼食



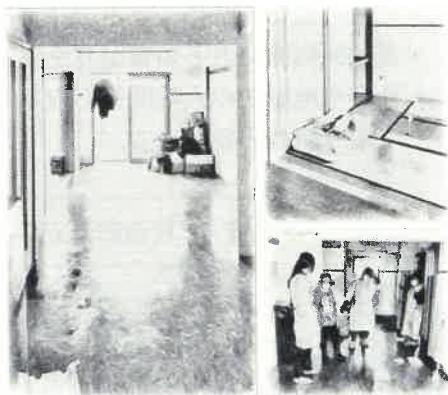
### ■昼食中の会話

- 「おいたちも分別すんのめんどくせえからなあ」
- 「分別できるごみ箱つくってやつかあ」
- 「これから一緒にやっていぐっちゃねえ」
- 「明日一緒に古い冷蔵庫粗大ゴミに出しに行くべな」
- 「こんななる前に早く言ってけだらよかったのに」
- 「みんなでやるとやっぱ早いっっちゃねえ」

■活動中の様子



■活動修了時の部屋の様子



■活動修了時のそれぞれの様子

【地域住民の方から部屋主のかたへ】

- ・自宅から布団や毛布等、取り急ぎ必要な生活用品を持ち寄ってきてくれた。
- ・次日に粗大ゴミと一緒に捨てにいこうという約束をしてくれた。
- ・ごみ出しの前日には声を掛けるからという平時の繋がりが生まれていた。

【部屋主から地域住民へ】

- ・手伝いいただいた事への深い感謝。
- ・これからは町内会の行事や掃除等を積極的に手伝っていきたいとのこと。
- ・同じような福祉ごみ処理活動の際には是非手伝わせてほしいと言ってくれた。

## 4. 福祉ごみ処理活動からみえたもの

■今回の活動が未然に防いだ可能性があるもの

【社会的孤立からの孤独死】

部屋主は数年人との情緒的な接点がなく、部屋の中で倒れていたこともあった。

【復興公営住宅における火災】

ガスが停められていたため、カセットコンロを使用していたがその周りではごみが燃えた形跡も。

【より重篤な健康問題】

栄養失調状態だったことや今回の関わりから肝硬変を患っていることがわかった。

【隣人の不安や不満の継続とその増加】

隣人の方も少しほっとしたと話してくれた。

【団地内の衛生環境の悪化】

両隣を含め匂いは廊下まで拡がっていた。

【コミュニティからの排除】

町内会内でも迷惑な人として話題になっていた。

### ■ごみ屋敷状態にある方への支援(今後の課題)

ごみ屋敷は様々な課題が複合的かつ重層化して生まれる。また、今の石巻には排出支援を単独で担う部署、機関は存在しない。



今後関わりのある単一部署だけで対応していくのか、それとも皆で取り組むのか。

## 5.緊急時から日常へ

### ■その後のつながりや変化

#### 【地域住民の動きや変化】

- ・訪問した際コンビニ袋が部屋に増えてきているのを見て一緒に片付けてくれた。
- ・近くの商店で偶然出会い、その際に部屋主がお礼を言わされたとのこと。困ったらすぐに声を掛けてと伝えたとのこと。
- ・冷蔵庫（粗大ゴミ）と一緒に捨てにいってくれ、処理費用も出してくれたとのこと。
- ・部屋主の働く意欲を聞き、現在の体調でも出来そうな仕事を一緒にさがしてくれている。
- ・野菜のおすそ分けをしてくれている。

#### 【部屋主の動きや変化】

- ・明るい表情や冗談を交わす様子がうまれた。
- ・人生で初めて選挙投票に行き、そこで会った人と昔話を楽しそうにしていた。
- ・今回手伝ってくれた方が草取りをしているのを見かけ一緒に草取りをした。
- ・町内の集いの場に行きみんなと交流していた。

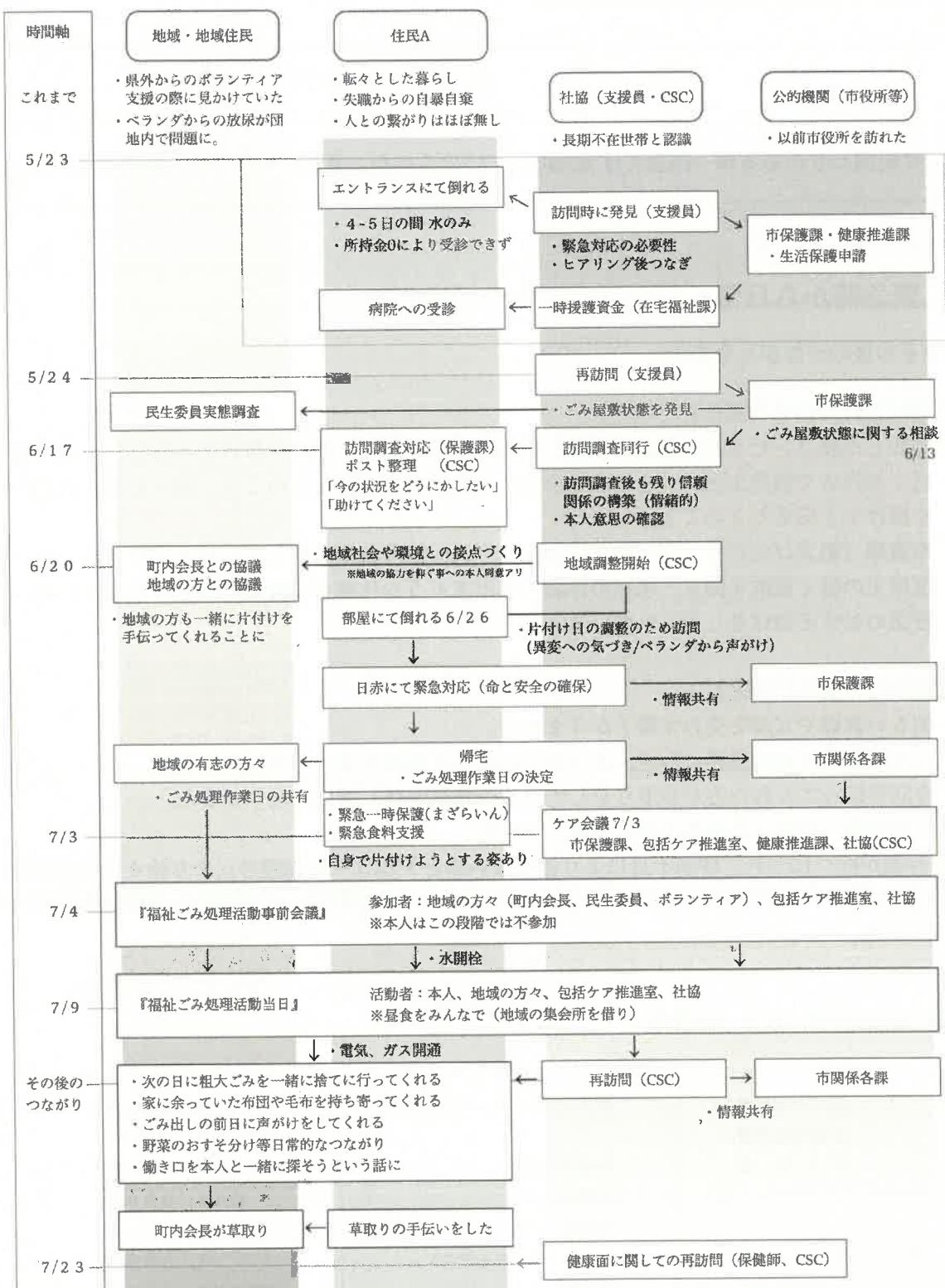
※時間が経つにつれ、体調不良により働けない事とアルコール課題等により徐々に以前の暮らしに戻りつつあった。そのためまずはアルコール課題解決に向け現在は治療と向き合っている。

### ■今回の活動にかかった費用

① ごみ処理費	クリーンセンター搬入代金	4,900円
② 掃除道具費		約10,000円
③ 人 件 費	地域住民 6名 社協職員 5名 市職員 1名	ボランタリー 約48,000円
④ 飲 食 費	昼食代（住民さん分含）	4,000円
⑤ 後日処理費	冷蔵庫	地域住民さんサポート

## ■関わりの経過記録

地域と協働による社会的孤立の解消に向けて  
『ごみ屋敷状態から地域とのつながりづくりへ』



## II

# 孤独死がうまれた地域で 小さな範囲の支え合いを watch over × small community

支え合いマップづくりをとおして

登録元気地「地域活動・生活支援センター」活動報告より

この地区では3年前から各々が日々の暮らしの中で、自分の手の届く範囲のご近所さんを見守りその時に得た情報（課題を抱えている方や心配な方の情報）を『地域見守り会議』と称した集まりに持ち寄って話し合いを行ってきました。

しかし2年前、自宅でひっそりと亡くなり、長い間誰にも気づかれなかった、"孤独死"という出来事が起こりました。

地域のつながりがあっても孤独死を防ぐことが出来なかつた、孤独死が生まれる地域になってきたのかショックを受けこのことをきっかけに、もう一度地域で関わりを目に見える形で整理し考えていこうという事になりました。その様子と新たに始めた活動の報告になります。

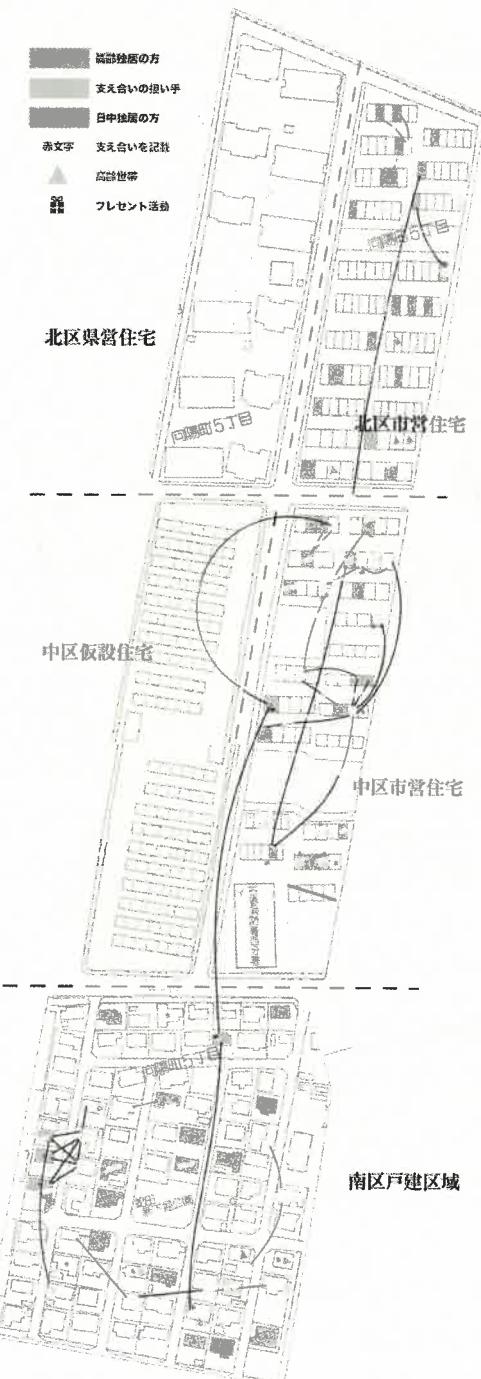
## 0. 活動場所と関係者(機関)

### ■活動場所

向陽町5丁目町内会(若葉会)

### ■関係者(機関)

向陽5丁目町内会住民、福祉協力員  
民生委員児童委員、行政区長、CSC



## ■向陽町5丁目町内会とは

この町内は、3年前から始めた見守り会議や複数あるサロン活動という意識的な支え合い以前に『日常的な営みの中で自然と取り組む支え合い』が基盤にあることが感じられる場所である。その基盤は何かと考えた時に、町内にあるもう一つの小さな圏域、言い換えると第4層（ご近所）が非常に明確で活発だからではないかと気付かされた。

第4層を実際に支え合いやすい50世帯ほどの集まりだとすると、この町内は市営住宅、県営住宅、戸建区域、仮設住宅（現在は解体）で丁度分かれているのが特徴である。【右図破線部分で分かれている】

## 1. 地域をみつめ直す

### ■洗い出し（見守り会議）

どうすれば孤独死を生まない地域になるのか、という協議の中で『本当に顔の見える範囲は町内会という範囲ではなく町内会の中の班という小さな範囲（第4層）ではないか、という意見が出された。また、要援護者と呼ばれる人たちはこの範囲から出られないのではないかという意見から、町内を6分割しそのひとつで①高齢独居世帯②高齢夫婦世帯の洗い出しを行っていった。



## 2. 地域状況を共有する

### ■つながりも可視化（支え合いマップづくり）

上記で洗い出しを進めるうちに、ただ単純に高齢独居だから心配なのではなく、そこに人との繋がりやふれ合いがあるのかどうかが大切では、という話になり③町内のつながりを支え合いマップと称して地図に落とし込む事とした「住民がどのようにふれ合っているか」「どんな助け合いが行われているのか」等を地図上に線を引いてくうちに、自然と孤立した住民が浮かび上がってきた。また、無数に線が伸びている世話人の姿がある一方で、無数に線が伸びてきている助けられ上手な要援護者の姿も見つけることができていった。この可視化を行うまでは、町内で”一癖も二癖もある人”として、支えられる側に見られていた住民が実はその人から多くの線が伸びていて、支え手としての側面があることに気付かされた場面もあった。



### 3. 新たなつながりづくり

#### ■見守り訪問活動

可視化を進めるうちに同じ町内でも、つながりのない人が浮き彫りになった。特に県営住宅に関しては、その区画そのものにほとんど関わりがないことが共有された。協議の中で県営住宅はまだ比較的若い世帯が多いいため心配いらないのではという声もでたが、④年齢関係なく心配な人はいるという声から、もう一度つながりをつくること、つながりを積み重ねていくこと、そして声を掛けて元気を届けることを目的に見守り訪問活動を始める事となった。この地区で長年育まれたゆるやかな見守りに加え、改めて意識的な見守りを町内の活動として取り入れた。



### 4. 繼続して支え合える地域へ

#### ■支え合いマップの更新をとおして

前回の作成から半年が経ったことと、見守り訪問活動で得たつながりを支え合いマップに反映させるため、更新作業を行った。時間の経過により『孤独・孤立状態になった人がいないか』『新たに生まれた支え合いのつながりはないか』という視点を意識して協議を行った。半年という短い期間だが、地域への変化は如実に表れており、85世帯(第4層)というひと区画だけ見てみても、6世帯が空き家に（死去や施設入所により）2世帯が高齢夫婦世帯から独居世帯へと変化していた。マップの更新を通じて死去等による繋がりの消失は明確に現れていたが一方で見守り訪問活動から挨拶をするようになったであったりサロンに参加してくれるようになった等の嬉しい変化も増えていた。

「地域が歳をとっていくのは仕方がない。その分地域に住むひとり一人が、今まで気に掛けなかった人を気に掛け、声を交わし合っていかなきやね」見守り会議で出されたこのような声を大切にし地域の中で拡げていきたいと考えている。



## 『災害公営住宅のコミュニティ形成支援』 ～新たな住民組織の設立および自立運営に向けた取り組み～

錦町東住宅会 会長 松田美和子  
認定 NPO 法人  
つながりデザインセンター 事務局 吉井隆

### 1 はじめに（事業の狙い・目的等）

災害公営住宅では、様々な地域の仮設住宅から転居してくる被災者による新たなコミュニティづくりが求められます。平成 29（2017）年 3 月に入居が開始した「塩竈市・錦町東住宅」も同じ状況でした。

認定 NPO 法人つながりデザインセンター（以下、つなセン）では、コミュニティづくりや住民組織の立ち上げを、住民主体で進めていくお手伝いをするとともに、住民同士の親睦を深めるため、イベントの企画や運営支援を行っています。

今回の報告では、「錦町東住宅」について、住民とつなセンが共同で推進してきた活動を紹介します。

### 2 事業内容

#### ・錦町東住宅の概要

錦町東住宅は、東日本大震災からの復興に向けた災害公営住宅として 70 世帯が建設され、平成 29 年 3 月に入居が開始されました。その後、令和元年 9 月に、錦町東住宅の共用部管理を行う住民組織として、「錦町東住宅会」が設立されました。



錦町東住宅会は、従来のいわゆる「町内会」や「自治会」とは異なります。錦町東住宅の入居者に義務付けられている共用部の管理を主な目的とし、入居する世帯は必ず加入していただくことになっています。

住宅会の運営も、全世帯が協力して実施していく必要があり、一部の人がずっと役員を担うのではなく一定の期間で交替していくこと、ひとりひとりが少しづつ役割を果たすことで、ひとりひとりの負担を軽くしていくことが大切と考えています。

#### ・入居当初の状況

錦町東住宅は入居開始から約 2 年間、住民組織がなく、棟に付属する集会所も無いため、「住んでいる人の顔が分からない」、「集まれる場所やきっかけがない。」という声が聞こえていました。

草むしりなどの建物周辺の手入れも、気が付いた人が自主的に行っている状況もありました。

平成 30 年 8 月につなセンが実施した入居者アンケート（回収率 81.4%）では、住

民組織について「とても必要」「どちらかというと必要」と考える人が、合わせて63.5%にのぼりました。

その一方で、“自治会”、“町内会”の設立や運営に負担を感じている人も少なくないようでした。

災害公営住宅の住民組織の役割には、①住民間の交流親睦機能、②住宅の共同管理という二つの側面があります。

色々やろうとすると大変ですが、まずは、最低限求められる「住宅の共同管理」に焦点をあて、住民の皆さんに公営住宅の管理の特徴を知っていただくとともに、快適な住環境を維持するための、負担の少ない体制づくりについて一緒に考えていくことにしました。

一緒に清掃や管理を行ううちに、ご近所の顔みしりも増え、自然なコミュニティ形成につながっていくことも期待できました。

#### ・住民組織設立までの取り組みについて

入居当初の課題を踏まえ、住民組織の設立を目的として、平成30年12月より3回の住宅管理検討会を経て、平成31年3月に「世話人会」を設立、具体的な準備を開始しました。

世話人会では、住民組織で運営する共益費の管理方法や管理体制等について、8回の協議が行いました。また住民同士の親睦を深めるため、2回のランチ会や花壇づくり＆バーベキュー及び、うみの杜水族館のバス旅行を計画・実施してきました。

世話人会の最終段階では、正式な住宅組織の名称を住民全員に公募し、「錦町東住宅会」に決定しました。



#### ・錦町東住宅会の設立総会

令和元年9月14日、正式に「錦町東住宅会」が発足し、事前に行ってきました全世帯への説明により、住宅会加入率は100%（70世帯）を達成することが出来ました。

役員体制は、会長・副会長を始めとする8名体制と、フロア毎の班長6名です。



- ・住民組織設立後の活動について

錦町東住宅会では、組織設立直後ということもあり、毎月役員会を開催し、住民の親睦を深めるためのイベント企画・実施や、住み易い住宅づくりに向けた検討を行っています。

現在、錦町東住宅が抱える一番の課題は住棟内に「住民の交流の場・集会所」がないことです。

過去を振り返ると、錦町東住宅が建設される前に、同地区に3棟の災害公営住宅と集会所が先に建設され、近隣の町内会に加入していました。その後に建設された錦町東住宅は世帯数が多いことなどから、同町内会に加わることが出来ず、独立した住民組織を立ち上げることになりました。

先に記述した通り、住民組織は何とか立ち上りましたが、70世帯もの交流の場や役員会を開催する場の確保が困難な状態にあります。

役員会は住宅のエントランスで開催したり、近郷の災害公営住宅集会所をお借りしていますが、使用料もかかり、利用制限も大きな課題となっていました。住民交流では身近な「お茶のみ会」等は開催できませんが、イベントはエントランスや屋外で何とか活動していました。

この「集会所問題」については、関係者と話し合いを続け、近郷の災害公営集会所を共同利用する方向で少しづつ話が進んでいます。

- ・新型コロナウイルス感染対策について

新型コロナウイルス感染対策では、各種イベントや役員会等の会合自粛が求められ、錦町東住宅でも、定期総会等を含め大きな影響を受けました。

令和2年度は初めての定期総会でしたが、3密を避けエントランスで会合を開催し、役員以外の会員には議案書を事前配布し、「委任状」を頂くことで何とか5月に開催することが出来ました。



### 3 今後の対応について

令和3年度以降、塩竈市からの委託がなくなり、つなセンが行ってきた外部支援は今年度で終了となります。

これまでつなセンが支援してきた「住民組織運営」や「交流イベントの企画・運営」等を自力で行っていく必要がありますが、そのための「運営のしおり（マニュアル）」の作成や、書類の整理・引継ぎ等を進めています。

また、住宅会で使用する文書の作成や印刷については、塩竈市への協力を依頼していく方向です。

## みんなの集いの場 —みんなが笑顔で過ごせる共有時間づくり—

多賀城市八幡沖町内会

菅野 真一

社会福祉法人 多賀城市社会福祉協議会

菊地 啓

### 1 はじめに

東日本大震災により津波被害を受けた地区において、住民はプレハブ応急仮設住宅に入居したり、または、みなしふ設住宅に居住したりし、元々のコミュニティが希薄となった。そこで気軽に集まることが出来る場の再開や、コミュニティの再構築を目的として復興支えあいセンターでは集会所等を利用した地域でのサロンを平成24年10月より開始した。

立ち上げから5年間は住民が主体となるような運営を心掛けていたものの、なかなか思いどおりに進まず、復興支えあいセンターが主導したサロン運営となった。

平成29年度に入ると、復興支えあいセンターの終息も見え始め、地区の区長（現町内会長。）や民生委員とサロンの存続について本格的に協議を始めた。

この八幡沖地区においても同様に協議を開始したが、従前から区長と副区長が率先した運営をしていたことや、地区に住んでいる高齢者からは「みんなで笑えることが出来るこの集まりは続けて欲しい。」との声が多数あったことから継続していくこととし、地区が主体となる運営に切り替えていくことで双方の意見が一致し地区主体の運営の移行が始まった。

社会福祉協議会ではこれまで年9回を開催してきたが、内3回を地区主体運営に改め、側面的支援を継続しながら徐々に主体性を移行していった。

また経費については、開催開始当初から参加費無料とし徴収していなかったため、地区が主体的運営となると運転資金がないことから、復興支えあいセンターが伴走支援で実施する月は予算の中から支出し、以外の開催時は町内会の予算の中からの捻出となった。このことから今では社会福祉協議会からの地域活動のための助成の活用と参加費を徴収して実施している。なお平成31年度からは完全地区運営となり現在も継続している。

### 2 事業内容

(旧)「おしゃべり処沖」→(現)「八幡沖おしゃべりサロン」について

- ・「八幡沖公民館」にて開催。
- ・毎月第一木曜日に開催。
- ・周知方法は「八幡沖」地区内の回覧や掲示板への掲載。
- ・参加者点呼時に名前を読み上げ（町内会長が点呼）、欠席していてもあえて呼ぶ。そうすることで、なんで休んでいるのか。など、参加者同士での情報の共有と気に掛ける働きが生まれる。
- ・参加者は平均30名程度。スタッフやボランティアを含めると約35名～40名となる。
- ・毎回、健康体操として『多賀モリ会』のコーディネーターによる「多賀モリ体操」を行い、健康維持も並行目的とする運営を行っている。
- ・引継ぎ後は参加費として1回あたり100円の徴収と、社会福祉協議会から「ふれあ

「いまちづくり事業」として、年4万円の助成を行っている。

### 3まとめ

八幡沖地区で運営をスムーズに移行出来た要因は、町内会長や民生委員が自分の地域についてよく把握し且つ、地域への愛着があったことだと思っている。そして住民同士が繋がれる集いの場を絶やしてはいけないと強い思いがあったからだと思っている。

社会福祉協議会としては、震災を契機として地区と関りを持つことが出来たが、地域共生社会の重要性が謳われている現代において、町内会長も民生委員もその重要性を理解し、いつまでも元気で暮らしていく環境づくりに取り組んでいただいている。ここまで道のりに達するまで数年という時間を要したが、地域との信頼関係を醸成する大切な時間だったと思っている。せっかく出来た繋がりを大切に、これからも一緒に歩んでいきたいと思う。



現在の『八幡沖おしゃべりサロン』の様子



『八幡沖おしゃべりサロン』の案内ちらし

## 『笑顔でつくる日本一のまち』

宮城県東松島市 あおい地区会  
会長 小野 竹一

### 第1章 震災から仮設住宅へ笑顔を取り戻す活動

2011年3月11日午後2時46分、突然の大地震。約50分後の大津波、東日本大震災の発生です。その時、私は内陸部の知人宅でお茶と会話の楽しい時間を過ごしていました。

私の自宅は、石巻工業港の内湾から30㍍の場所。頭の中は家族が大丈夫なのか不安でいっぱいでした。お昼寝時間の孫のこと、海岸の石巻魚市場近くの工場で働く長男のこと等。早く家に帰らねば、と車を急がせましたが、三陸道石巻港インター付近で、そこから先に進むことができませんでした（自宅から4㌔ぐらいの場所）。今考えると自宅まで行ったとしたら、今の私はいなかつたかも知れません。亡くなつた方々の中に家へ戻つた方やその途中で犠牲になつた方が多くいたからです。

夕方5時過ぎ、内陸部の赤井地区にある長男の嫁の実家で長男と会うことができました。その実家はハウス等で農業を営んでおり、そこへ私の妻が手伝いに行っていました。私が着いた時はどこかに避難して誰もおりませんでした。後でわかったことですが、妻は家に帰ると向かうそうです。長男と私は心配な一晩を過ごし、翌日の夜、水没している中学校に、妻や孫、嫁全員が避難していることを確認し、3日目の日中、胸までの水の中を泳ぎ、涙の再会をすることができました。震災後一週間目ぐらいの時、片付けの手伝いをして転倒、右足のアキレス腱を断絶、3ヶ月間のギブス生活となりました。そんな中で親戚の叔父・叔母、従弟が亡くなり、遺体確認や代理喪主として葬儀を行い、長年行方不明の長男の替わりの不在者財産管理人として裁判所から認定を受け、役所や関係機関への諸手続きを行い、後に発見された長男へ財産の引き渡しを行うことができました。

3ヶ月後の6月下旬、市内各所に仮設住宅の建設が進み、矢本運動公園野球場応急仮設住宅3-7号室と3-8号室の2Kタイプへ家族6人で入居しました。その後、行政主導で各仮設住宅での自治会設立が進み、私の地区でも設立集会が開かれることになりました。その日、私は2009年8月に直腸ガンの手術を行い、定期検診のため不参加でした。翌日、欠席裁判で私が会長にとの決議がなされたと知らせを受けました。震災前、地域の役員をやつたことがないでの断りましたが、係の方が連日来訪し、1週間後に受ける決断をしました。

私は自治会長としての一番目の仕事として副会長、班長等の役員に就任された方々との意思統一のために五つの目標を立てました。

#### 自治会活動の目標

1. 住民に笑顔と元気を取り戻す活動
2. 一人暮らしや高齢の方々の見守り活動
3. イベント等を行い、参加意識を持たせる活動（ひきこもり・とじこもりを無くしま

しょう！）

#### 4. 団体生活での秩序やルールを守る活動

#### 5. 将来に向けて自立のための活動

運動公園の仮設住宅は西自治会210世帯、私が会長を引き受けた東自治会183世帯、全体で393世帯の大きな仮設住宅でした。仮設住宅に入居してすぐに感じたのは、住民に笑顔や元気がないことでした。家族や友人等を亡くした方、将来のことで不安を抱え、悩んでいる方々が多く、あいさつさえできない方が大勢いたからです。子供たちの元気な姿を見て、大人も元気になる。ボランティアや支援団体に全てを任せる受け身態勢でなく、自分たちで計画・立案し、自分たちで出来ないこと、不足している部分を支援・応援してもらうことが移転後の自立に役立つと考えたからです。

2011年12月に3週続けてのX'mas会を開催しました。

一回目はコンサートやリンゴ1,000個プレゼントの会。

二回目はUFOキャッチャー等のゲームで子供たちだけでなく、昔の子供たちも大喜びの会。

三回目は焼き出しと歌のプレゼントの会。

会場へ足を運ぶことができない弱者の方々へは班長さんやボランティアが直接プレゼントを届けました。

自治会が西と東に分かれても、住民へは同じ支援活動を行うことを私の東自治会の役員の方に指示・確認しました。

X'mas会やイルミネーション点灯式等のイベントで笑顔を取り戻したかに見えた方々が、年が明けて3月

11日が近づくにつれ、遺体が見つからず行方不明の方、一周忌法要のことで心が揺れ、笑顔と元気がなくなっている姿が見えてきました。そこで支援団体の方と相談して4月にお花見会を企画。



「ギネスに挑戦お花見会」と題し、【123人が輪になって腕を組み、ギネス記録に挑戦】お花見会に参加するとギネス記録に挑戦できると、住民約1,150人の7割の方が会場に出てくれました。①カエルの歌をパートごとに225人で輪唱する。②123人が後ろ向きの輪になって腕を組み、一斉に立ち上がる種目。結果は2種目共に記録達成はできませんでしたが、住民の笑顔と笑い声の絶えない一日となりました。

\*2012年9月20日発行、月刊地域支え合い情報創刊号（特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンターCLCのHPに掲載されています。

URL：<http://www.clc.Japan.com>で検索して下さい。

震災から一年が過ぎ、このイベントより両自治会から屋台の出店を行い、出店参加をして下さった団体に「100円でも200円でもお金を取って販売して下さい、いつまでも無料では自立の妨げになる」とお願いをしました。売上金の全額を自治会の支援にとの申し出がありました。半額だけありがたくいただき、残りの半額は「お土産や食事等で、できれば東松島市内

で使って下さい」とお返しいたしました。



【青森ねぶたが登場し、大いに盛り上がる夏まつり】 【地元と日光市の高校生による青空カフェ】

8月には亡くなった方々の慰靈の意味を込めた“ねぶた”の運行を青森の団体の方へお願いをし、青森ねぶたと夏まつりの開催を行うことができました。ねぶたの登場に手を合わせて祈る高齢の方の姿、ハネトに参加する元気な子供たちの姿、往復1, 5<sup>km</sup>を運行する沿道を12, 000人の見物客が埋め尽くす大盛り上がり。これらのイベントは少し形を変えていますが、集団移転をした今でも続いている。

ほかに長野県小川村の皆さんによる3, 000個のおやき。横浜一ノ蔵男声合唱団と横浜歌の絆の会の皆さんによるコンサートや311円募金の自治会運営資金の援助。全国各地からの学生さんたちによる支援活動、地元に根を下ろして活動を続けるボランティアの皆さん等、大勢の方々に支えられ、苦しみや悲しみを乗り越えて笑えることができました。感謝の気持ちを持ち続け、伝承していきたいと思います。

## 第2章 みんなで参加 日本一のまちづくり活動

市は防災危険区域に指定された住民の集団移転地7か所を自由に選び、申し込みができることを決めました。

2012年11月、懇談会や準備会を経て東矢本駅北地区まちづくり整備協議会（2014年5月、あおい地区まちづくり整備協議会に名称変更）を設立、会長に就任。その時の第一声で日本一のまちづくりを宣言。皆さんは大風呂敷を広げて、との思いで聞いていたと思います。

目標は日本一のまち

目的として三つ挙げ、

一つ目、20年後、30年後の子どもたちに残すまちを日本一のまちに

二つ目、犠牲になり、亡くなった方々の帰って来るまちを日本一のまちに

三つ目、支援して下さった方々へのお礼としての日本一のまちをつくること。

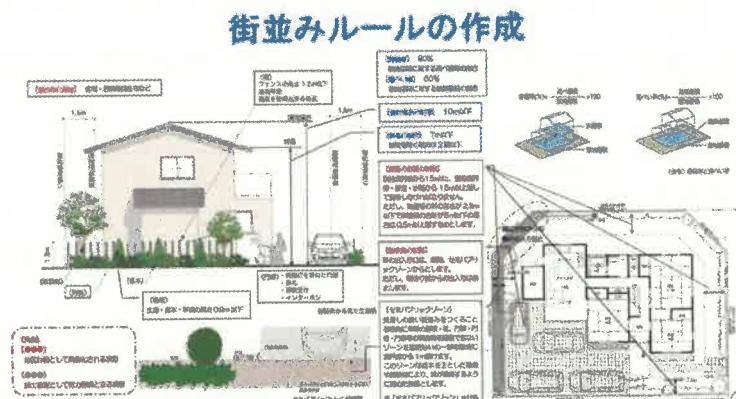
以上のことから、みんなで意見を出し合い、日本一のまちへ集団移転しましょう、と呼びかけました。

役員の選出には、少数の移転希望者を救済するために各行政区から一名は役員になっていただき、移転希望者多数派の声が大きくなり、その地域をそのまま移すまちづくりを行わないとの

考え方からです。

38名の方が役員に就任、まちをつくるのに検討すべきことは何か？5～6名で8つの専門部会を中心とし、住民とのワークショップや井戸端会議を開催し意見集約を行い、部会の考え方として全体会議に諮り、最後は総会で賛否を問い合わせ、行政に提案することとし、行政の一方的な押し付けでのまちづくりを行うではなく、その場所に住むのは私たちなので住民の意見や希望に沿った計画案を一緒に考え、実行しましょうと呼びかけました。初めは行政の方の抵抗感がありましたが、三日に一度ぐらいの会議の進行と次々と出される提案に半年後には行政から逆提案されるまでに進展していきました。専門部会と検討内容を簡単に説明します。

◎まちなみ検討部会は30歳代の方が部会長となり、ブロック塀の禁止、建物は境界線から1・5m離すこと、道路から1mはセミパブリックゾーンとして植栽に努める等まちなみルールを作成し、条例化まで行って50年後、100年後も素晴らしい景観を目指しています。



隣地境界線から1.5m離す。柵は透視性があり1.2m以下、道路から1mはセミパブリック(安全・ゆとり)ゾーンとして植栽に努める等、厳しいルールですが、自分も守り、隣人にも守ってもらうことにより、快適な生活環境を守るためにルールでもあります。街並みがそろい、素晴らしい景観の街ができあがることを目指しています。住みやすいまち日本一は、現在、千葉ニュータウンです。その日本一の街に私達の団地は挑戦します。

を行い、健康遊具が20基ある日本一の公園です。

◎区画決定ルール検討部会では、行政が公平性を前提に行うガラガラポンの抽選ではなく、隣組や親子・親戚等が近くに住みたいとの望みを叶えるための、将来の班に当たるブロックを決め、次に区画を決める方法を申し込みと話し合いで行いました。時間はかかりましたが、住む前から同じ班の方、前後、お隣さんの顔の見える決め方で譲り合いが生まれ、コミュニティ形成にも寄与しました。

2012(H24). 12. 10  
～12. 12  
第1回ワークショップ  
矢本保健相談センター



2013(H25). 1. 12  
意見交換会  
矢本運動公園仮設住宅  
東集合会所



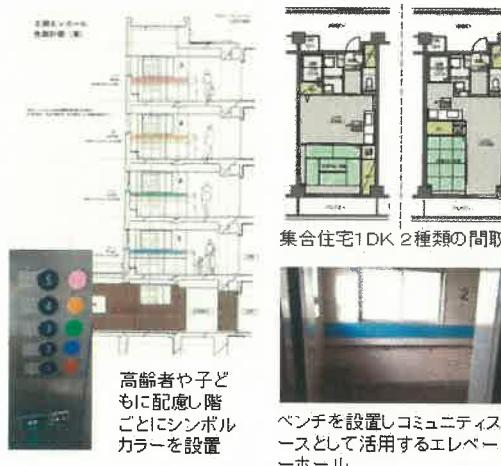
◎公共施設検討部会は、娘さんを亡くした方が部会長となり、四か所の公園と三か所の集会所は行政の考える公平性重視の同じ仕様の施設を作りますが、住民の意見は季節が感じられ、使用目的の違う個性あふれる公園、みんなが集まれる大きなホールや趣味の教室等と用途に合わせた間取りの集会所の提案を行った。秋の公園としてモミジの植栽

◎広報部会と新しいまちの名称選考委員会では、女性の方が中心となり、まちづくり協議で今、何を話し合い、いつ皆さんからの意見を聞き、いつ全体総会を開催するか等の情報共有の「まちづくり通信」を2012年11月設立から2016年10月の解散まで全31回発行しました。また、団地の名称を住所にとの願いから中学生や高校生も加えた名称選考委員会を立ち上げ、全国の方に呼びかけて公募293点から10点に絞り、住民になる方一票で投票を行い、「あおい」が選ばれました。東松島市のイメージとして、あおい海、あおい空、あおあおとした田んぼ、そしてブルーインパルス、青いこいのぼり、希望のあおが込められています。

◎研修・イベント部会では、先進事例等を学ぶ勉強会や研修会、まちなみルールを理解した工務店やハウスメーカーが自社のアピールを行う住宅なんでも相談会等の開催を行うとともに

## 災害公営住宅

部会での協議を踏まえ、平屋の増加、ベランダの設置、仏壇置場の設置位置変更、エレベーターホールの設置(集合住宅)、間取りの修正などについて実現してきました。



2014(H26)年10月、青森ねぶたで大交流会を開催し、第Ⅰ期入居を前祝い。

25

### 【災害公営住宅とワークショップと協議を踏まえた修正図】

協議会設立の6か月後の移転者が確定する前の早い段階からの交流会を開催、2014年10月には第一期入居(47世帯)を祝う青森ねぶたでの大交流会を開催し、住民の団結力の確認に結び付きました。

◎災害公営部会では、貸し手の大家さんは市、借り手の住民は「出来上がった住宅に黙って入居しなさい」の手法でなく、災害による苦渋の決断で移転してくるので、その方々がどのような生活をしたいのか？平屋なのか二階建てが良いのか？リビングの広い方が良いのか？寝室が広い方が良いのか？等の住民意向を

聞き取り、仏壇置き場の位置等も含め間取りの修正や平屋の増加の提案を行い、将来の戸建て住宅の払い下げを見据えた建設を議論してきました。

◎コミュニティ推進部会では、行政は入居後の人々が住むようになってから住民の話し合いで自治会の設立を、との考え方ですが、私たちは移転して住む人が決まり、隣近所や班の方々との顔の見える区画決めを進めてきているので、人が住む前に自治会の規約や生活面での約束事を決めることで、一番早く入居する方がゴミ当番や回覧板の順番等を理解していることが安心につながり、次の入居者を待つことができる取り組みを行いました。

部会のすべての紹介ではありませんが、以上のような事柄を住民との意見交換やワークショッピング、井戸端会議で声を聞き、部会・役員会で検討を行って最後は全体総会での決議で決定することで、日本一のまちづくりに向け、年間120回もの会議等を続けました。

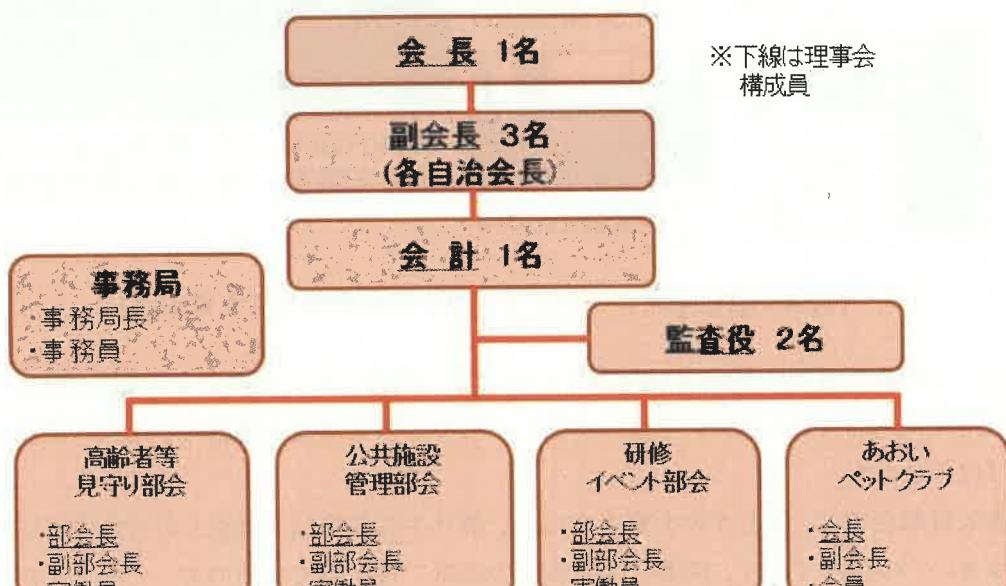
### 第3章 持続可能な日本一のまちへ

2016年4月10日、あおい一丁目地区自治会から三丁目まで各自治会の自主的な運営を尊重しつつ、自治会の枠を超えて、あおい地区全体として一本化して進めた方が、より効果的、効率的な事業に特化して取り組む組織としてあおい地区会を設立。背景として2012年11月に設立したあおい地区まちづくり整備協議会は、集団移転事業のハード事業の終了により、移転入居が進み、その役割が終了に向かい、これまでに検討してきた課題の継続を目的としてあります。(あおい地区まちづくり整備協議会は2016年10月に解散)

※組織体制図

## あおい地区会

### 組織体制図



※ 実働員…ゆるやかに(都合がつく場合)参画する部会員  
登録制

部会と活動内容

## ① 高齢者等見守り部会

- \*高齢者の安否確認、孤独死の防止、日中独居の見守りに、傾聴を主とした見守り活動で実行中。
- \*花や動物等のイラストを入れた表札と緊急時の連絡先の電話番号を表記した緊急連絡表の提案を行い、80%以上の方の賛同・作成依頼を受けて取り付けました。
- \*高齢者でも元気な方々の居場所づくりや介護予防・健康寿命を延ばす活動として枝豆やサツマイモ栽培の農園作業活動を行っています。また、コミュニティビジネス化を目指しています。
- \*現在、見守りスタッフ12名、農園作業従事者40名にて活動中。



【安否確認など対象世帯の状況を打合せ】



【枝豆などの収穫を前に農園で汗を流す住民】

- \*あおい地区全体の高齢化率40%、公災害営集合住宅の独居率72%と高く、地域包括ケアは、住民が住民を見守る体制・システムの構築により継続的活動を行いたい。

## ② 公共施設管理部会

3か所の集会所や4つの公園は、あおい地区の住民全員がそれぞれの目的に合わせて使用するように設計

設置をしています。それらのことから清掃や除草作業等は全世帯が関わるよう、維持管理を一本化しての管理を実施しています。

## ③ 研修・イベント部会

地域全体で開催する春夏秋冬のイベントとして

- \*青いこいのぼりと春のフラワーフェスティバル（動員800名）

100人で36㍍の長いのり巻きづくりに挑戦・太鼓やコンサート・屋台も

- \*青森ねぶたと子供だんじり夏まつり（動員8,500名）

青森ねぶた・子供だんじり・獅子舞・コンサート・屋台

- \*敬老会合同開催

\*ハロウィン・パーティーと秋まつり 子供たちが実行委員となって企画・立案、大人はサポート役として開催

- \*あおい星空☆イルミネーション点灯式

3か所の集会所と駅前公園の4か所にイルミネーションを飾り付け、カウントダウンで点灯

牧師さんによるミサ・コンサート、屋台

\*たこづくり教室と親子たこあげ大会

高齢者の方々が子供たちにたこづくりを指導し、親子でのたこあげ大会を開催  
たこづくり、餅、とん汁、ホットカルピス等で交流（無料）  
その他に防災訓練・炊き出し訓練等の合同開催、ボランティア、支援団体によるコン  
サート等の開催。

\*他地域の自治会や団体との意見交換や交流

- ・講師を招き、先進事例等を学ぶ研修会の開催
- ・環境整備先進地の視察と移動研修の開催
- ・JICAが行う世界各国の人材訪問への研修事業への参画
- ・全国の学生からの防災研修訪問への対応

④ あおいペットクラブ

震災時に家族が亡くなり、助かったペットと災害公営住宅で一緒に暮らすためにマナーを守り、しつけを行うことで一代限りの許可をいただきました。

地域の子供たちにマナー向上の啓発ポスターを描いてもらい、表彰を行って公園のフェンス等に取り付け、掲示しました。また、ペットの散歩時のパトロールや道路のゴミ拾い活動を行い地域貢献を行っております。以上のような日本一のまちづくり活動を行い、2019年には3年連続快適度日本一となり、自治会活動10年以上で環境整備やまち並みの維持管理を行う団体を年に5か所選出する「住まいのまちなみ賞」に自治会設立3年目のあおい地区が異例中の異例で県内初の表彰を受けました。また、東松島市で取り組むSDGs（持続可能な開発目標）に※住み続けられるまちづくりと※パートナーシップで目標を達成しよう部門に選出されました。

今後も心の復興・見守り活動に力を入れ、業務委託を目指し、日本一のまち・あおい地区を継続・発展させてまいります。



※11=住み続けられる  
まちづくり部門



※17=パートナーシップで目  
標を達成しよう部門



終わりに、これまでの活動ができたのは、仮設住宅班や市民協働課等の方のご理解とご指導、また、まちづくり協議会の事務局を担当してくださったNPOの皆さんからのアドバイスがあり、全国からのボランティア、支援団体のお力、ご協力が結集して出来上がった日本一のまちづくりです。関わっていただいた全ての方々へ感謝とますますのご活躍をご祈念申し上げ、お礼いたします。



### 世界の国々が学ぶ！ みんなでつくる住みよいまち

訪問団は東松島市のみなみ地区は、震災から復興後に国内の様々な地域から参入する多くの団体の方々に注目し地図や資料を見ながら、復興による被災者の暮らしや取り組みなどを紹介。また、被災者の方々の心の状態や被災を、充実豊かな暮らしを中心としたまちづくりの取り組みなどを、JICA（昭和47年度人間開発助成事業）が立ち寄る際の見学会を参考にするとともに、JICA（昭和47年度人間開発助成事業）が立ち寄る際の見学会にて、多くの方々が入院（JICAの宿泊施設）で過ごす様子も見学されました。

あおい地区のまちづくり  
あおいに贈りられた尼崎市長  
手作りの花火大会  
あおい地区会  
JICAの研修事業  
JICAの研修事業  
あおい地区会

2020.10  
宮城県東松島市  
あおい地区会  
会長 小野 竹一

\*仮設住宅時代の取り組みは

月刊 地域支え合い情報

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)

URL [http://www.clc\\_japan.com](http://www.clc_japan.com)

\*あおい地区まちづくり整備協議会の取り組みは

東松島市のホームページを開き、検索であおい地区のまちづくりをクリック

URL <http://city.higashimatsushima.miyanagi.jp/>

\*あおい地区会の取り組みは

あおい地区会、または小野竹一

URL <https://www.facebook.com/aoi.chikukai>

\*放送大学、災害社会学 2020年4月29日 BS232 チャンネル、ユーチューブまたはオンラインデマンドでご覧ください。



「なかよしサポート会ができるまで」  
～そっと見守り・ちょこっと声がけ・ちょっとお手伝い～

氏名 川辺 琴路

所属・職名 山元町社会福祉協議会 生活支援 CO

1 はじめに（事業の狙い・目的等）

本町では、東日本大震災後に整備された新市街地へ再建した住民の新たなコミュニティ形成が大きな課題となっている。震災後出来た公営住宅の中でも1番大きい「つばめの杜」地区は「つばめの杜西地区」「つばめの杜東地区」と2つの自治会があり、様々な地域から集まつたという理由もあり、各自治会ごとに知恵を凝らし活動をしている。その活動に生活支援COとして参加し関わりながら、「自分たちの地域をどうにかしたい」という熱い想いを持ちながら活動している方々を支援することで、「誰か」の問題を「自分」の問題として、地域ぐるみで解決に近づけていくことができるよう働きかけていくことを目的とする。

2 事業内容

2016年から、高齢者の引きこもり防止、住民同士のコミュニケーションづくり、居場所づくり、生きがいづくりの場として毎週木曜日に集会所で活動をしていた「なかよし会」に参加させてもらなながら、地域の現状を把握。なかよし会のスタッフには、仮設住宅時代から、各仮設内でお世話役を担っていたキーパーソンが多いこと、また、社協のちょっとした困りごとに対応する有償ボランティア（輪互の会）への依頼もつばめの杜東地区から多くあったことから、情報共有の必要性があると考え、月1回の福祉情報共有会（なじよすっぺ会）を提案させていただく。約1年間、なじよすっぺ会を継続実施した。

3 まとめ（地域福祉の推進にどう生かしたいか等）

約1年間のなじよすっぺ会を通して、「それまでの活動」から1歩進んだ活動「そっと見守り・ちょこっと声がけ・ちょっとお手伝いする～なかよしサポート会」へ変化する瞬間、まさに蛹が蝶へ羽化する瞬間を目の当たりにして、住民が主体となって活動していく素晴らしい体感することができた。

生活支援COとして活動していく中で、「これでいいのだろうか」「自分には何ができるんだろう」と自問自答してきた毎日だったが、今回の「なかよし会」への関わりの中で、改めて時間をかけて地域と関わることは「効率が悪い」と評価されることもあるが、間違ってはないということを再確認することができたと考えている。今後も、地域との信頼関係の構築を信条として地域福祉の推進を目指していく。

2016年から活動を開始した「なかよし会」  
第1木曜日には趣味の会が行われています。



地域の高齢者の方たちに少しでも”お雛祭り”的な気分を味わってもらおうと、折がみで「お雛様とお内裏さま」を作りました。ちょっと一休みした後に、ひとりひとりのお宅へ届けます!!

第2.第4木曜日には健康教室が行われます。



普段は軽い体操をして体を動かしていますが、最近はユニバーサルスポーツと呼ばれている  
「卓球バレー」も一生懸命やっています。

第3木曜日は「料理教室」が行われています。



当日お休みした人には、パックにつめて  
近所の人が届けることもあります。

約1年間の福祉情報共有会  
「なじょすっぺ会」を経て・・

そっと見守り

ちょこっと声かけ

ちょっとお手伝いをする

なかよしサポート会の  
メンバーです。



「なかよしサポート会」が誕生しました!



おたがいさま  
— 安心して暮らせる住処を目指して —

上浜街道公営住宅 見守り隊 渡邊 紀美子  
社会福祉法人亘理町社会福祉協議会 佐藤 秀憲

## 1 はじめに

平成 29 年に集会所等の集まりにはあまり参加されない方でしたが、外で会えば挨拶や立ち話するような、社交的で元気だった方が、自室で亡くなり、発見に数日がかかつてしまつた事があり、この事が公営住宅にお住いの住民の心に何か釈然としない気持ちが起き、住民が動き出した。住民が集まり、何度か座談会を行い、住民同士が互いに見守りを行える形として『見守り隊』を組織し、活動がはじまつた。互いに見守りを行う形になるまで、社会福祉協議会はあくまでも住民主体の活動として見守りの必要があればバックアップ支援を行つてきた。立ち上げから活動開始までは、CSW公開研究会「災害公営住宅自治会等活動実践報告会」で報告させていただいた内容と、その後の『見守り隊』の報告となる。

## 2 事業内容

### (1) 『見守り隊』について

上浜街道公営住宅において、住民同士が互いに見守り活動を週 1 回実施している。見守り活動は、見守られる側は、玄関に「元気ですよ」と伝える印を掲示し、見守りを行う側は、その印を確認しながら、個別訪問等も行つてゐる。

見守り希望者 18 名 見守り協力者 21 名

2 ヶ月に一度、「見守り希望者」「見守り協力者」の交流会を実施し、「見守り協力者」のリーダー打合わせ等を随時実施しながら、互いに顔が見える関係性の構築を視野に活動を行つてゐる。

活動開始当初は、同住宅にお住まいの方から、訪問時の話し声が「うるさい」という声もあり、見守り隊協力者の訪問活動は 2 名で行うなど、活動を継続していくうちに、住宅内で活動が認知され、そのような苦情も少なくなった。

新型コロナウイルスが流行しても、感染対策を行いながら見守り活動を実施している。

### (2) 『見守り隊』発足までの流れ

・第 1 回座談会の開催（平成 29 年 12 月 17 日）

住宅内での不安なことや、心配な事、困っている事について自由に情報交換することから始まる。その中では、自治組織の問題（ゴミ当番や放置自転車等）、コミュニティの問題（住

民間の挨拶や高齢者見守り等) の意見がかわされた。社会福祉協議会は、その座談会の場がうまく運営されるように助言および板書等を行い、座談会をサポートする形で支援を行った。

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">回　覧</p> <p style="text-align: center;">平成29年1月20日</p> <p>集合住宅入居者の皆さまへ</p> <p style="text-align: center;">上飯田街道住宅 1・2・3番地班長一郎</p> <p>集合住宅「支え合い」の話し合いに参加しませんか?</p> <p>上飯田街道住では、ひとり暮らしの方や高齢者の方など、色々な地域から転居されました。 今後の高齢化率の上昇や孤立化の問題など、たくさんのお困り事があります。 そこで、わたくしたちは、住民同士が互いに見守り支え合うことで、1人1人が安心して生活していくことができれば、と考えました。 つきましては、集合住宅にお住いの皆さまで「支え合い」について話し合いたいと思います。 老若男女は問いません。多くの方々の参加をお待ちしています。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 時　　平成29年1月21日 1時から 2 場　　上飯田街道集会所 3 内　容　住民側の支え合いに対する意見交換</p> </div>	
<p>行政区長、社協、各棟の班長と相談し、「住民同士の支え合いに対する意見交換会」を企画し、住宅3棟の班長名で住宅内に回覧板としてまわした文書。</p>	<p>第1回 座談会の様子 回覧板の呼びかけに多くの住民が参加してくださいました。</p>

#### ・第2回(平成30年2月)

第1回の座談会を受け、住宅内でお互いにどのような形で見守りあいが行うことができるのかについて話し合いが行われる。

#### ・第3回(平成30年3月)

見守り活動を行うにはどのようにしていくか、具体的な話し合いが行われる。

#### ・第4回(平成30年4月)

実際に活動を行っていくための詳細を話し合う。

4回の座談会を受け、平成30年6月に『見守り隊』の活動が始まる。4回の座談会は、すべて住民が主体的に実施した。社会福祉協議会は座談会実施後、座談会の状況等を聞き取り、助言・相談等を行いつながら活動開始まで見守る形をとり支援を行っていた。



### (3) 発足から現在まで課題・問題点等

- さらに顔が見える関係づくり

2ヶ月に一度、交流会を実施はしているがなかなか互いの顔が見てこない事もあり、活動当初は1号棟の「見守り協力者」は、1号棟の「見守り希望者」を見守るという形で、棟毎に実施していたものを、1号棟の協力者は2号棟、2号棟の協力者は3号棟、3号棟の協力者は1号棟という形で自分が住んでいない棟を訪問してもらう形で、訪問方法を変えたところ、互いの顔が見える関係づくりがスムーズに行えるようになっている。

- 協力者、見守り希望者の新規募集について

現在新型コロナウィルスの影響で、新規の希望者等の募集を回覧板等をまわして募るような形はできない状況、協力者が気にかかる方に関しては、直接の声掛けではなく、遠くから見守る形で勝手に見守りを行っている。今後コロナウィルスが落ち着いて来た頃に、声掛けをおこなっていこうとおもっている。

- 新型コロナウィルス感染症対策

訪問時は、必ずマスクをつけ、流行前には玄関先で世間話等をしながら安否確認をおこなっていたが、現在はできるかぎり短時間ですませるようにしている。「見守り協力者」も「見守り希望者」もゆっくり話をしたいが、密接をさける関係でいたしかたない状況となっている。

協力者のリーダー打合わせに関しては、流行前のように頻繁に開催することはできない状況ではあるが、必要があれば互いに連絡を取り合いその都度協議している。

- 活動を今後も継続していく為には

「見守り協力者」もいつかは、「見守り希望者」になっていく、うまく住民が循環して役を担っていくといいが、なかなか難しく、若い世代がこの活動に参加してもらうにはかなり大変だが、現在1名だが、若い世代の人が協力者として活動を行ってくれている。まだ中学生のお子さんがいる状況なので毎回の活動への参加は厳しい状況だが、この方をきっかけに若い世代が多く参加するようになれば、今後の活動への不安が少なくなっていく。



見守り協力隊のみなさん



現在の見守り隊の活動風景

### 3 総括

上浜街道公営住宅『見守り隊』の活動は、あくまでも住民が主体となり、自分達で抱えている問題を解決していくこうという、プロセスに社会福祉協議会は裏方として常に支援をし続けている活動になる。

現在の中心的に『見守り隊』の活動をしている方と一緒に活動を始めた若い世代もあり、今後あらゆる世代が、この活動の中に入ることによって、さらにこの公営住宅の『おたがいさま』の関係が構築されていくと思われる。

『見守り隊』の代表である、渡邊紀美子さんは、「公営住宅全体がひとつの家族の様な関係で、おたがさまでいれるようになってきたように感じる」と今までの活動を振り返り、話をしてくださいました。自分の事を気にかけて欲しい人、自分の事はかまわないで欲しい人いろいろな人がいる。いろいろな人が自分らしく、その地域に住み、生活しているその支えになるような活動を『見守り隊』は行っている。

## 『 災害公営住宅入居被災者見守り・相談ネットワーク構築事業 』

氏 名 : 菊 地 顕 緩

所属・役割等々:七ヶ浜町社会福祉協議会・事業担当者

### 1 はじめに（事業の狙い・目的等）

災害公営住宅入居者の包括的な見守り・相談支援体制を構築するとともに、災害公営住宅入居者宅を含む地域住民間の交流促進に資する事業を実施し、住民同士の助け合い・支え合い活動を促し孤立化等の防止を図ることを目的とする。

### 2 事業内容

- ・公営住宅の中でリスクレベルが高い入居者への相談援助・訪問活動
- ・対象地区避難所においてのサロン活動
- ・対象地区見守り役員との定例会議による情報共有

※新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて展開している。（添付ファイル参照）

### 3 まとめ（地域福祉の推進にどう生かしたいか等）

平成 26 年度より事業が開始され、事業対象地区 5 地区(公営住宅が建立された地区)と十分に協議し、震災以降浮き彫りになった、地区で支援が必要とされている世帯に対し、日頃から見守っていく扱い手として「見守り役員会」を設置した。役員メンバーには区長・民生委員・公営代表が地区より選出されたが、中々事業が明確化されず、行政・社協・見守り役員も事業ビジョンを見いだせずにいた。

そこで、目が届かないとの声もあり地区住民も巻き込み「見守り」を互いで見守りを自発的に行う意味あいと公営住宅だけをクローズアップすると地区住民より不満も募ることを恐れ、公営住宅は地区の一部との意識を強める為、平成 28 年度から、地区の見守り役員と協議し、「避難所地区サロン」を事業の中に盛り込み展開したが、当初は「なにそれ」の感が強く、住民から受け入れてもらえるまで、見守り役員と四苦八苦したが、徐々に理解され事業目標でもある「住民同士の助け合い・支え合い」がサロンを通じて生まれていき、今では、参加者同士が互いを気にかけ合うまでに至った。

見守り役員も事業開始時とは比べようがないくらい、積極性が生まれ、今年度は、地区の壁を外し、他地区のサロンにも呼ばれ講師をするなど広がりをみせるようになった。

事業自体が被災者関連の事業として進めていた為、対象地区が絞らざるを得なかつたが、ゆくゆくは、本事業で培ったシステムを応用し、町全体的に展開し地区住民が主体性を持って、「地区の見守り活動」を展開できるよう、行政・関係機関等からアドバイスを頂き地区住民と「 協働 」し歩調を合わせながら住民活動のサポートを社協として努めていきたいと思います。

## コロナ禍においてのサロン活動



花渕浜地区サロン(R2.7/1 内容  
仙台傾聴の会)



菖蒲田浜地区サロン(R2.9/7:内  
容 地区サロンについての講話)



松ヶ浜地区サロン(R2.9/23:内容  
朗読会)



復興コンサート 2 地区で開催



毎年開催していた地区避難所サロン「料理教室」が、今年度はコロナ禍なので調理実習ができないため、七ヶ浜役場栄養士による栄養講話(左)と東北学院大学本間教授と宮城県サポートセンター支援事務所・宮城県社会福祉協議会の協力を頂き住民向けのサロンについての講演会を開催した。



毎年協力を頂いている、仙台傾聴の会による「音楽で脳トレ」

地区間交流サロンとして「七ヶ浜ヒストリー」という名目で他地区的区長を招き、七ヶ浜の歴史にまつわる講演会を実施している

サロン開始年度からの参加者対比表

(松ヶ浜)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	年間回数	平均												
内容	人数	内容	人数	内容	人数	内容	人数	内容	人数	内容	人数	内容	人数	内容	人数	計												
H28	-	-	-	-	-	茶話会	15	非常食調理試食	23	茶話会	16	抹茶の会	15	音楽で脳トレ	18	中止	-	茶話会	13	カラオケ	15	お茶つ子会	13	8	128	16.0		
H29	抹茶の会	15	茶話会	16	抹茶コンサート	13	セタづくり	29	中止	-	仙台抹茶の会	14	抹茶コンサート	37	新規会員について話したい	10	中止	-	新年会	27	話合い	14	次年度について話したい	17	10	192	19.2	
H30	花見会＆抹茶	18	合唱の会	15	料理教室	21	セタづくり	37	医療コンサート	24	仙台抹茶の会	19	ザーバンダム会員新規会員について話したい	21	料理教室	23	中止	-	新年会	31	お茶つ子会	20	次年度について話したい	19	11	248	22.5	
H31	お抹茶の会	18	料理教室	16	抹茶講評	16	ミニゲーム	16	音楽で脳トレ	15	ピアノ	32	復興コンサート	22	新規会員について話したい	27	料理教室	-	新年会	28	相続について話したい	18	中止	-	10	221	22.1	
R2	お花見	平均	/中止	17.0	15.7	/中止	19.5	/中止	26.3	移動研修	朗 詠	音楽コンサート	15	音楽コンサート	21	松ヶ浜ヒストリードラマ	-	新年会	18	黒文化交流会	今後について話したい	12	15	18.0	18.0			
(菖蒲田)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	年間回数	平均												
H28	-	-	-	-	-	茶話会	16	マジック	20	茶話会	19	茶話会	13	ランチ会	16	中止	-	新年会	27	次年度について話したい	23	9	176	19.6				
H29	茶話会	24	茶話会	24	茶話会	31	セタづくり	21	仙台抹茶の会	29	復興コンサート	25	今後会員について話したい	26	話し合い	19	クリスマス会	32	中止	-	新年会	40	ひなまつり	21	11	292	26.5	
H30	お抹茶の会	31	花見会	31	花見会	31	セタづくり	30	仙台抹茶の会	30	セタづくり	15	今後のロジックについて話したい	24	料理教室	22	復興コンサート	29	クリスマス会	34	ひなまつり	25	11	286	26.3			
H31	華 会	32	料理教室	22	料理教室	22	セタ会	21	学ぼう会	20	コンサート	31	料理教室	17	復興コンサート	16	音楽コンサート	18	クリスマス会	38	新年会	38	中止	-	10	219	27.4	
R2	お花見会	平均	/中止	29.0	20.5	/中止	24.3	/中止	23.4	DVD鑑賞	16	音楽コンサート	16	音楽コンサート	20.0	音楽コンサート	23.4	音楽コンサート	21.0	音楽コンサート	19.5	-	-	34.8	23.0	41	976	23.3
(花瀬浜)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	年間回数	平均												
H28	茶話会	3	中止	-	-	茶話会	10	非常食調理試食	21	茶話会	41	茶話会	9	音楽で脳トレ	21	茶話会	11	ターキッシュ	18	新年会	25	茶話会	15	茶話会	23	11	197	17.9
H29	花見会	16	中止	-	-	ロコモ体操	35	仙台抹茶の会	19	ゲーム	18	復興コンサート	20	今後会員について話したい	12	火力発電	16	話合い	12	新年会	20	ミニゲーム	10	次年度について話したい	10	11	186	17.1
H30	花見会	22	料理教室	18	新規開拓会(説)	25	茶話会	8	合唱サロン	15	復興コンサート	19	移動研修	21	傾聴の会	11	料理教室	18	新年会	25	会場サロン	17	次年度について話したい	18	12	217	18.1	
H31	町内花見	21	音楽で脳トレ	9	料理教室	25	料理教室	16	草で歌ふ会	12	コンサート	17	移動研修	26	音楽で脳トレ	11	料理教室	12	新年会	28	音楽で歌ふ会	19	中止	-	11	196	17.8	
R2	町内花見	平均	/中止	15.5	13.5	/中止	26.5	/中止	13.2	DVD鑑賞	16	復興コンサート	16	移動研修	20.0	音楽コンサート	12.6	音楽コンサート	14.8	音楽コンサート	24.5	音楽コンサート	15.3	17.0	45	827	17.1	
(吉田浜)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	年間回数	平均												
H28	茶話会	-	-	-	-	茶話会	21	非常食調理試食	10	ナーカス	41	茶話会	9	音楽で脳トレ	21	茶話会	11	ターキッシュ	18	新年会	25	茶話会	15	茶話会	23	11	197	17.9
H29	花見会	16	中止	-	-	ロコモ体操	35	仙台抹茶の会	19	ゲーム	18	復興コンサート	20	今後会員について話したい	12	火力発電	16	話合い	12	新年会	20	ミニゲーム	10	次年度について話したい	10	11	186	17.1
H30	花見会	22	料理教室	18	新規開拓会(説)	25	茶話会	8	合唱サロン	15	復興コンサート	19	移動研修	21	傾聴の会	11	料理教室	18	新年会	25	会場サロン	17	次年度について話したい	18	12	217	18.1	
H31	町内花見	21	音楽で脳トレ	9	料理教室	25	料理教室	16	草で歌ふ会	12	コンサート	17	移動研修	26	音楽で脳トレ	11	料理教室	12	新年会	28	音楽で歌ふ会	19	中止	-	11	196	17.8	
R2	町内花見	平均	/中止	20.0	15.5	/中止	21.0	/中止	20.4	DVD鑑賞	16	復興コンサート	16	移動研修	20.0	音楽コンサート	12.6	音楽コンサート	14.8	音楽コンサート	24.5	音楽コンサート	15.3	17.0	45	827	17.1	
(代ヶ崎)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間回数	年間回数	平均												
H28	-	-	-	-	-	料理教室	21	非常食調理試食	12	料理教室	16	茶話会	13	音楽で脳トレ	13	茶話会	14	認知症サポート	19	新年会	26	茶話会	14	ターキッシュ	2	40	20.0	
H29	-	-	-	-	-	復興コンサート	26	コンサート	-	料理教室	12	茶話会	-	復興コンサート	-	料理教室	17	新年会	31	会員登録	17	中止	-	9	151	16.8		
H30	料理教室	20	音楽コンサート	-	音楽コンサート	-	音楽コンサート	-	料理教室	16	茶話会	13	音楽で脳トレ	21	抹茶の会	21	新年会	29	次年度について話したい	15	中止	-	9	151	16.8			
R2	料理教室	-	音楽コンサート	-	音楽コンサート	-	音楽コンサート	-	料理教室	17	茶話会	-	音楽で脳トレ	-	料理教室	17	新年会	34	おしゃべり	28	中止	-	11	261	23.7			
平均	16.0	17.0	19.3	17.0	19.3	12.0	21.0	26.0	21.0	15.0	21.0	19.5	20.6	19.2	19.0	50	749	19.4										

# 地域コーディネーター活動実践事例集

—持続可能性を支える地域資源の発掘—



## わかばやし マスクの下は笑顔プロジェクト

庄子 克彦 ・ 杉山 裕子 ・ 佐々木 愛  
(社福)仙台市社会福祉協議会 若林区事務所 CSW

### 1 はじめに（事業の狙い・目的等）

仙台市若林区では、9の地区社会福祉協議会（南材・荒町・連坊・南小泉南・南小泉北・大和・若林・六郷・七郷）が組織され、「都心及び周辺地域」「郊外住宅地域」「田園・海浜地域」等、地域の特色にあわせた地域福祉活動を展開している。東日本大震災から10年、地域住民同士の助け合い・支え合いの大切さを改めて感じ、日頃からの見守り声かけ活動や、住民同士が地域の身近な場所で交流するサロン活動の充実に力を入れてきた。



#### ◆令和元年度 小地域福祉ネットワーク活動 実績

安否確認活動	対象世帯数（世帯）	実施回数（回）	支援者（人）
年間	3,362	16,860	514

日常生活支援活動	対象世帯数（世帯）	実施回数（回）	支援者（人）
上半期（4～9月）	2,081	4,516	445
下半期（10～3月）	1,569	4,564	499

サロン活動	対象者延べ人数（人）	実施回数（回）	支援者（人）
上半期（4～9月）	6,240	366	701
下半期（10～3月）	6,269	353	665

#### 新型コロナウイルス感染症の影響による地域福祉活動の自粛・中止

令和2年5月、緊急事態宣言は解除されたものの、地域活動の自粛を余儀なくされ、若林区内でも地区社会福祉協議会や町内会、民生委員、福祉委員等が取り組んでいたサロン活動の中止を継続するケースが多かった。

地域住民が集い、ふれあい、顔をあわせて交流することが制限され、活動再開のめどが立たない状況から、これまで地域で築きあげてきた「住民同士のつながり」が失われることを心配する声が高まり、活動者からは、「今は仕方がないが、いつまで続くのか。」「このままで良いのだろうか。」といった悩み・不安の声が多数寄せられた。

また、個々が抱える心配ごとや不安の増加、身体的・精神的な落ち込み、閉じこもり、経済的な困窮、社会的孤立など生活課題が深刻化することも懸念され、「見守りをしているが、精神的に不安定になって

いる方がいる。」「家で過ごす時間が長くなり、誰かと話したいと訴えられる。」「サロンに参加し元気だった方が、急に体調を崩した。」といった声もあった。

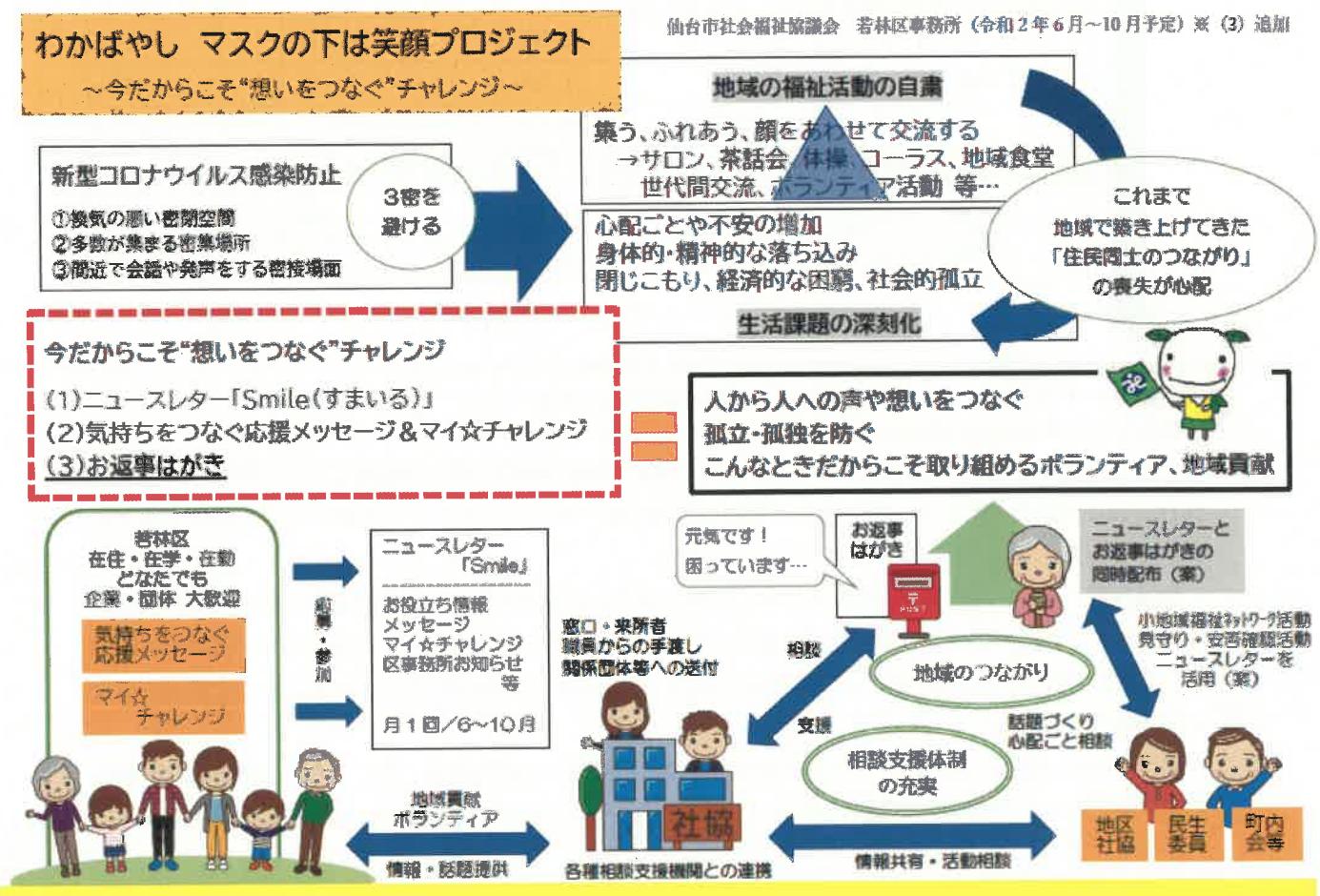
また、ボランティア・社会貢献活動では、活動希望者からの相談を受けても、活動先として受け入れでくる団体がなかつたり、各団体が例年続けてきた活動が実施できなかつたりで、社会参加の場が減少していることも課題にあがつた。

以上のような状況を受けとめ、当事務所でも「何かできることはないか。」と、他市町村社協の取り組み等を参考に検討を始め、6月「わかばやし マスクの下は笑顔プロジェクト」を企画・実施することになった。

### プロジェクトの目的

- ①人から人への声や想いをつなぐことで、孤立・孤独を防止し、こんなときだからこそ取り組めるボランティア・地域貢献活動につなぐ。
- ②地域住民が取り組む見守り声かけ活動と連携し、仙台市社協若林区事務所に配置されたCSWの総合相談機能の強化を図る。
- ③長年取り組んできた地域福祉活動の積み重ねを活かし、地域住民が安心して継続的に地域福祉活動に取り組めるよう活動の見える化、情報発信を行う。

## 2 事業内容



## (1) ニュースレター「Smile (すまいる)」の発行

6月から10月にかけて、月1回のペースで第5号まで発行した。記事の内容は、コロナ禍でも工夫して取り組んでいる地域福祉活動・ボランティア活動の紹介を主とし、CSW等が地域に出向き取材を行った。同時に「気持ちをつなぐ応援メッセージ」や「マイ☆チャレンジ」を広く募集した。応募数は少なかったが、これまでつながりがあった団体や、新たにつながった団体に声かけし、掲載を呼びかけた。タイムリーな情報発信は好評を得た。また、若林区事務所では、平成29年度から「高校生・大学生のボランティア場づくり事業」に取り組み、区内で活動する大学生と連携し、高校生と一緒に活動する場を広げてきた。今年度の事業は中止したが、高校生・大学生がニュースレターに登場する等、直接会えなくともできることに取り組んだ。



※ニュースレターは、仙台市社協ホームページのトップページ「イベント・活動情報」にも掲載。

## (2) 地域住民が取り組む見守り活動との連携

見守り声かけ活動に活用してもらうため、ニュースレター、お返事はがき、企業からの寄付でいただいた支援物資を組み合わせて、「すまいるセット」を作成した。活動者に紹介し、10月末現在で、地区社会福祉協議会、町内会、民生委員児童委員協議会など、約18の団体が「すまいるセット」を活用した訪問活動等に取り組んだ。

具体的には、「サロンは中止しているが、つながりを絶やさないために訪問活動をしてみたい。」「普段は手作りのお弁当を届ける配食活動を行っているが、コロナの影響で中止しているため、その代わりに配付したい。」「いつもなら防災訓練



と同時に安否確認を行うが、今年は未定のため、安否確認訓練として実施したい。」「毎月の見守りは例年8月を休みとしているが、今年度は、サロンが中止となっているため、8月も訪問をしたい。」「サロン活動を再開するので、参加者に配付したい。」など、実施する地域の状況をふまえてセットを提供し支援した。

また、お返事はがきは、CSWの総合相談との連携を狙い、以下のような内容にした。返信先は若林区事務所としたが、活動者との情報共有を行うため、あて先は実施団体との連名にした。

#### お返事はがきの内容

- ① 基本情報（名前・年齢・住所・電話）
- ② 体調はいかがですか？（良い・普通・以前より悪くなった）
- ③ 週に1回以上外出していますか？（はい・いいえ）
- ④ 相談したいことや困りごとはありますか？（ある・特にない）→ある方は内容を記入
- ⑤ その他、近況、オリジナル川柳、マイ☆チャレンジなど

#### 地域で取り組む見守り訪問活動の様子



訪問時には、ニュースレターを話題にした会話や、各々の近況報告がされた。中には、「久しぶりに人と話した。」という方もおり大変喜ばれた。お返事はがきは、お渡しした後にしまい込んでしまう可能性があったため、訪問者が口頭で聞き取り、その場で困りごとの相談を受け止めるケースもあった。また、直接、地域の活動に関われないが、すまいるセットの作成には、高校生・大学生にも関わってもらう等し、ボランティア・社会参加の場の提供も行った。

7月末頃から、若林区事務所には、毎日のようにお返事はがきが届くようになった。返信率は高くないが、コロナ禍での生活の様子やサロンの再開を願う声、地域活動者への感謝のメッセージなどが届いた。相談ごとを記入してくださる方には、フォローの電話をし、必要に応じて助言や支援者につなぐ等の連絡・調整を行った。



## お返事はがきのまとめの一例

～大和地区社会福祉協議会・大和地区民生委員児童委員協議会の活動より～

◆配付対象者 136名 ◆お返事はがき返信者数 91名 ◆返信者の平均年齢 84歳／最高年齢98歳

(令和2年10月8日現在)

① 体調はいかがですか？（良い・普通・以前より悪くなつた）

良い	普通	以前より悪くなつた	無回答
24	52	14	1

② 週に1回以上外出していますか？

はい	いいえ	無回答
85	4	2

③ 相談したいことや困りごとはありますか？

ある	特になし	無回答
10	76	3

### ◆自由記述欄

- ・単身者で淋しさを感じることがある。近くに親族がいるのでたまに自宅に来てまぎれている。
- ・今は毎日ぐらい雨の降らない時は朝歩いております。30~40分程度、たまに帰り買物をして来ます。
- ・道楽三昧てる暇などない余生、老春、老美、老楽、老遊をモットーに生活してます。
- ・お陰様でなんとかすごしております。民生委員さん、とても明るくステキな方です。元気を貰ってます。ありがとうございます。
- ・自宅に変な電話がかかってきます。7月頃より男性。
- ・将来は高齢者施設への入居を希望しております。施設を探すには、どのようにしたらよろしいのでしょうか。



大和地区民生委員児童委員協議会定例会で見守り訪問活動等の報告

## 3まとめ（地域福祉の推進にどう生かしたいか等）

### （1）すでに取り組んでいる活動を活かす+CSWの関わり

#### →地域の見守り活動の充実と総合相談の強化

当プロジェクトを通じ、コロナ禍でも若林区事務所として、地域とのつながりを絶やさず、活動者とのコミュニケーションを大事にした。今後も、地区社会福祉協議会や地区民生委員児童委員協議会等の話し合いや活動の場に出向き、活動を細やかに把握することを継続したい。コロナ禍では、サロン活動等の集まる場を中止する中、訪問活動の継続や充実を考える地区があった。地域で課題を抱えている方に一番に気づける存在であり、重要な取り組みであるため、この経験を活かし活動支援・充実を図りたい。

### （2）活動の見える化、情報発信の工夫 → 活動の意義や効果の意味付けと後押し

普段はなかなかスポットの当たりにくい地域福祉活動であるが、日頃の地道な積み重ねがいざとなつた時に活かされることを実感できた。「他の地区はどうしているか、情報がほしい。」という積極的な声がある一方で、すでに取り組んでいるものもあり、そういう活動をよりわかりやすく発信していくこととあわせて、活動をより後押しできるツールの提供を積極的に行っていきたい。



栗原市のお宝集  
— 共に支え 共に助け合い 共に生きる地域の創造 —

社会福祉法人栗原市社会福祉協議会  
第2層生活支援コーディネーター

**1はじめに（事業の狙い・目的等）**

栗原市より生活支援体制整備事業第2層運営等業務を受託し3年目。地域にある様々な資源・お宝探しを通して見えてきた、これまで住民が大切にしてきた暮らしぶりや生活の工夫や知恵を、栗原市内10地区に配置された生活支援コーディネーターが事例として紹介。栗原市社会福祉協議会の理念である「共に支え 共に助け合い 共に生きる」地域の創造のもとに地域福祉活動を推進し、地域包括ケアシステムの構築を目指し、生活支援コーディネーターとしての資質向上に繋げていくことを目的とする。

**2事業内容（別添パワーポイント資料について）**

- (1) 栗原市社会福祉協議会と生活支援体制整備事業の目的・役割について
- (2) 生活支援コーディネーターが見つけたお宝について
  - ①つながり…築館、若柳、高清水
  - ②お茶飲み…栗駒、瀬峰
  - ③健康維持…一迫、鷲沢、金成
  - ④くりはら元気アップ体操…志波姫、花山
- (3) まとめ

**3まとめ（地域福祉の推進にどう生かしたいか等）**

お宝探しを通して共通していることは、自分の生活している地域や人をお互いに大切にしており、気にかけ合うことで人と人とのつながりの輪が広がっている。生活の中にある何気ない小さな集まりや、語り合いの積み重ねがお互いの支え合いとなり、それらが集結することで、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるための大きな力となる。活動や関係の根本的な部分には、地域愛と楽しさがあるからこそ活動を続けられている。生活支援コーディネーターとして、地域包括ケアシステムの構築と地域住民総ぐるみの取り組みを目指していきたい。

# 栗原市のお宝集

共に支え 共に助け合い 共に生きる 地域の創造



社会福祉法人栗原市社会福祉協議会 第2層生活支援コーディネーター

## 栗原市は こんなところ



宮城県の北東部  
名峰栗駒山を仰ぎ、9町1村で合併  
人口 市全体 約**66,130人**  
高齢化率 **39.9%**  
**(2020年9月末現在)**

栗原市社会福祉協議会では  
市内**255**地区すべての行政区に  
地区社会福祉協議会の設置を目指す  
そこで暮らす住民が主役となる  
小地域福祉活動を推進



平成30年(2018年)から、  
栗原市より生活支援体制整備事業  
第2層運営等業務を受託

住民主体の活動資源を活かし可視化  
誰もが願う 住み慣れた地域で  
自分らしく暮らし続けられるように  
住民と共に課題解決に繋がる支援を目標  
としています。

自分らしく住み慣れた地域で暮らし  
続けたい住民の願いをかなえるために



コーディネーター業務は、地域住民の中に入り  
共に考え、共に楽しみ、共に悩んだり…



## 地域のお宝探し



地域住民の普段の暮らしの中にある  
目配り、気配り、心配りや小さな支え合いと  
専門的ケアと手を組み支えること

## — 今、できることを楽しみながら続ける —

佐野地区 左足ひまわりの会  
(築館地区)



お茶飲みがあ互いの支え合いに



ひまわり植栽で地域に元気を発信！



高齢になつても気兼ねなく交流出来る場が欲しい！との声から令和元年度に会を発足。

目標 「楽しく語り合い、日々の生活に輝きを見出し、元気で長生きできるように」

\*お茶飲み

・3～5人が会長宅に集まり、ほぼ毎日お茶飲み。70代から90代の女性会員11名、最高齢は94歳！

\*ひまわり植栽活動

・会の行事は新型コロナウイルスのため中止

⇒新たな活動として、地区内の花壇や道路沿いにひまわりを植栽

・「ひまわりの種」は、平成20年岩手・宮城内陸地震の際、被災地復興応援リレーとして神戸から栗原へ送られた種。今後は来年度に向けてひまわりの種取りを行い、継続して植栽していくよう計画している。

## つながいから生まれる あらたなつながい ～ 迫桜高校の取組みから ～

宮城県迫桜高等学校  
(若柳地区)



栗原市お宝発表会に登壇



休校中にマスク作り 地域の方へ



蚤の市に生徒が育て住民が販売を

高齢者の小さなお茶のみ会がきっかけで、次につながい

自分達に出来ることで 地域のために役に立ちたい そんな気持ちを実践！

・郷土料理を学ぶ授業 ⇒ お茶っこ会の世話人が一日講師として指導

・学園祭で習った郷土食を販売提供 ⇒ 郷土食の伝承

・令和元年度 大雨災害被災地(大郷町)でのボランティア活動

・コロナ禍、休校中に手作りマスクの作成 ⇒ 地域住民へ寄付

・マスクをもらった住民がお礼の手紙を学校へ ⇒ 自分達に出来ることを更に考える

・コロナに負けない地域づくりを目指し 住民あてメッセージカードを作成

・農業科の実習で栽培した野菜を生徒の代わりに住民が販売(蚤の市)

## ー 地域の交流を大切に ー

7区 桂会  
(高清水地区)

毎年楽しみにしている新年会



地域の子どもたちも一緒に！



花壇の植栽活動



高清水地区最大の老人クラブで、7区自治会会員も兼ねている方が多く、行事も合同で開催している。会員の健康や福祉活動の向上と親睦を図るために、お茶っこ会や健康教室。地域貢献として、センター前の花壇植栽等、時季に合わせて色々な活動をしている。また年に数回、地区の子どもたちと世代間交流も行い、地域の活性化にもつなげている。



グラウンド・ゴルフ大会

伝統文化の  
伝承

つながり

世代間交流

役割を持つ

生きがいに  
なる

心のより  
どころ

地域を  
元気にする

新しい  
事業

伝統や文化の伝承によって地域には普段から色々なつながりがあります。様々な世代で交流することにより、地域が活性化し、そこから新しい事業が生まれたりもします。地域の住民はそれを意識せず行っている場合が多く、自分たちに合った自然な支え合いのつながり作りを行っています。

## — お茶飲みからはじまる支え合い —

もみじ会  
(栗駒地区)

声を掛け誘い合い、お迎えに行ったりもします。



ここへ来ると自然と笑顔があふれ、互いに元気になります。

気心知れた仲間同士で集まりお茶飲みをすることが楽しみであり、情報交換しながら知恵と工夫を共有し合うことが、お互いを元気づける力になる。日頃から、何気なく行われている集まりがあるからこそ、互いに気にかけ合い、支え合いが生まれる。

## — みんなの笑顔が見たいから —

泉谷地区 あすか  
(瀬峰地区)



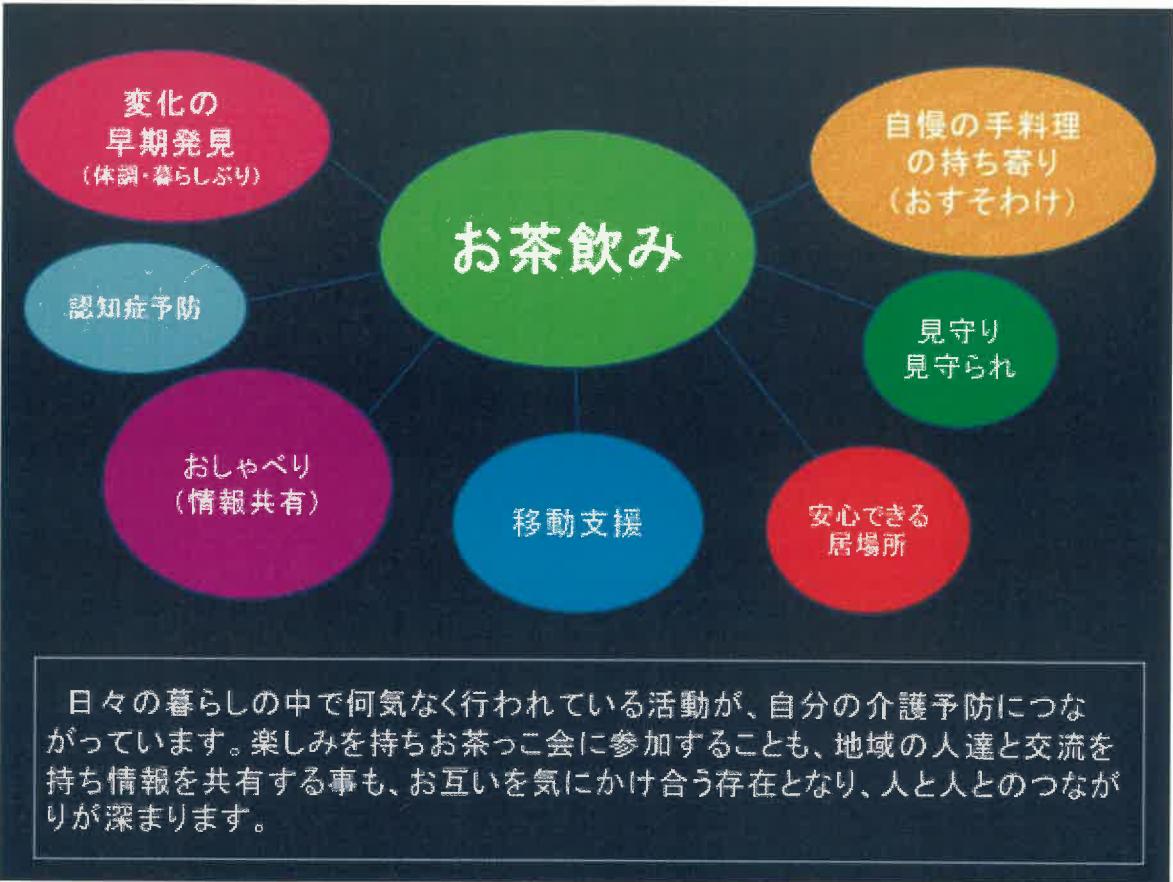
ラジオ体操からスタート  
座ったままでも体操します



お茶飲みしながら脳トレも

平成10年に心身の維持向上、社会的孤立感の解消、互いの交流を図ることを目的として立ち上げられた地区ミニディ、その後お茶飲みしながら元氣で笑顔でいられる「憩いの場」の提供を目的とした住民主体の運営となり、およそ月に1回のお茶っこ会を開催活動している。

互いに顔を合わせておしゃべりをするこの集まりの場が地域の元気のもとになっている。



日々の暮らしの中で何気なく行われている活動が、自分の介護予防につながっています。楽しみを持ちお茶っこ会に参加することも、地域の人達と交流を持ち情報を共有する事も、お互いを気にかけ合う存在となり、人と人とのつながりが深まります。

## ー みんな元気に仲良く、和氣あいあいと ー



老若男女問わず  
スポーツを楽しみながら交流

八幡グラウンドゴルフ愛好会  
(一迫地区)



練習後の評価  
次への活力に！！

練習後は、何気ない  
会話を楽しむ

毎週月曜日、木曜日週2回、仲間づくり、健康維持のため練習会を開催し、各大会にも出場するために、頑張っている。

新しい仲間と楽しんだり人と接する機会が増えたり、身体を動かす機会が多くなり、心身ともに良い効果が表れる。地域スポーツとして「健康な地区八幡」を目指し、「みんな仲良く、和氣あいあい」と楽しみながら健康づくりや仲間づくりに役立てたい。

## —マイペースで健康維持を—

細倉老人家庭バレー部愛好会  
(鶴沢地区)



ほぼ毎日顔を合わせる仲間 30年以上 和気あいあいと和やかに楽しんでいます

火曜日から金曜日までの4日間、ほぼ毎日みんなで集まり練習している。ハードなイメージがあるが、「頑張り過ぎず、マイペースで行うことが、長く活動を続けられている秘訣」と、みなさん声を合わせて言われる。一人暮らしの方にも声掛けをして、一緒に参加したりと、安否確認にもつながり、地域の支え合いになっている。

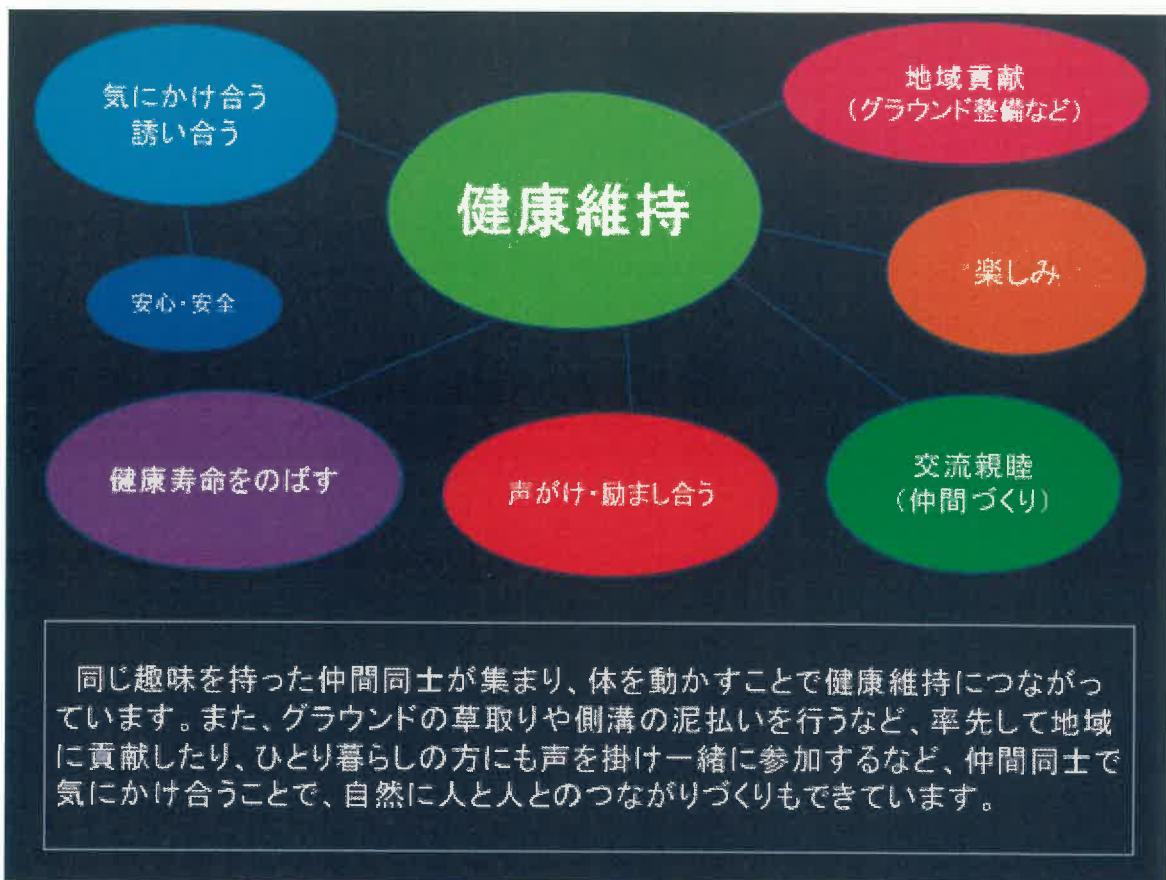
## —マイペースで健康維持を—

細倉老人家庭バレー部愛好会  
(鶴沢地区)



ほぼ毎日顔を合わせる仲間 30年以上 和気あいあいと和やかに楽しんでいます

火曜日から金曜日までの4日間、ほぼ毎日みんなで集まり練習している。ハードなイメージがあるが、「頑張り過ぎず、マイペースで行うことが、長く活動を続けられている秘訣」と、みなさん声を合わせて言われる。一人暮らしの方にも声掛けをして、一緒に参加したりと、安否確認にもつながり、地域の支え合いになっている。



## —「くりはら元気アップ体操」でみんな元気に —

はちみつレモンの会  
(志波姫地区)

毎週月曜日、健康体操をしながら、わいわいがやがやと仲間との交流も楽しみに介護予防に取り組んでいる。  
最高齢94歳の会員さんも元気に参加している。

(1)音楽に合わせた体操やストレッチで、体の柔軟性を高める  
(2)話し語りでお互いの情報交換(休憩タイム)  
(3)「くりはら元気アップ体操」のDVDを見ながら筋力アップに取り組んでいる

気の合う仲間との交流

## — いつまでも元気でいるために —

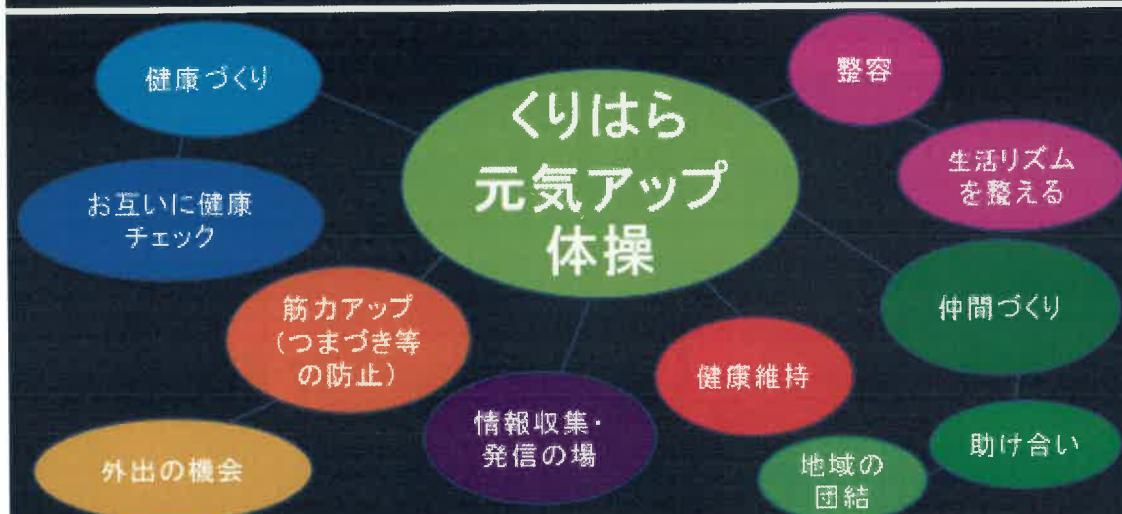
北ノ前地区元気アップ体操  
(花山地区)



毎週水曜日にみんなに会うのが楽し  
み！

体を動かすのは楽しい！

いつまでも元気に暮らしていくよう、健康維持・介護予防のため地域の仲間が集まり、くりはら元気アップ体操を行ってからラジオ体操第1～第3ときよしのズンドコ節の曲に合わせて楽しみながら体を動かしている。仲間同士で集まる機会があることで、地域での情報交換もでき、昔ながらの知恵をお互いに共有し合い、日々の生活に活かしている。



週に一度、「くりはら元気アップ体操」で体力づくり。

活動を始めた頃は、足腰が痛く続けられるか心配していたが、回数を重ねるごとに足が上がり、つまずくことが無くなり、外に出掛けることが楽しみになった方や、腰も曲がり歩行時に杖を使っていたが、今は杖を使わずに万歩計をつけ毎日約5000歩いている方など、できることが増えている。毎週顔を合わせ、お互いに声をかけ合い、活動を継続することで、健康維持につながっています。

※「くりはら元気アップ体操」とは栗原市が推進している活動。介護が必要な状態に陥らないように、週1回集会所などに集まりDVDを見ながら、くりはら元気アップ体操に取り組んでいます。

## 栗原のお宝から、コーディネーターが 気付いたこと、教えられたこと、伝えたいこと…

- ・自分の住む地域が1番好き、地域を大切にしている
- ・他人事にしない、自分事としている
- ・世代問わず誰かのことを気にかける→次世代へつながる
- ・やっぱり楽しい、楽しいからこそ活動を続けられる



## 住み慣れた地域で 元気に暮らしていくために

私たち生活支援コーディネーターは、地域の皆さんと  
共につながりや支え合い、お宝を探していきます。

これからも、どうぞよろしくお願ひいたします！





## 『コロナとさんさん福袋』

氏名 菅原 春花

大崎市社会福祉協議会松山支所総務福祉係

### 1 はじめに

新型コロナウイルスの影響で中止となっていた「高齢者の生きがいと健康づくり推進事業」と「ひとり暮らし高齢者の集い事業」の代替え事業として、「高齢者配食サービス事業」の利用者も対象に加えての見守り活動を目的とした事業活動。

### 2 事業内容

松山婦人会から寄附された手作りマスク（100枚）と、新型コロナウイルスについて必要な情報が書かれたチラシや外出が出来ない状況改善のため自宅で楽しめる塗り絵や間違い探し等の問題を含む創作活動用具を詰めた「さんさん福袋」を作成し、当職員が安全に配慮しながら利用者の自宅に訪問し配布を行う。加えて、松山放課後児童クラブに通う児童にメッセージカードを作成してもらい「さんさん福袋」の中に同封した。



### 3 まとめ

実際に福袋を渡してみて、私は入社したばかりということもあり、新型コロナウイルスの影響で地域に出る機会が無かったため、今回地域に出て事業の利用者への挨拶も兼ねる事が出来た。

福袋を受け取った利用者はとても喜んでいる様子で「なかなかマスクが買えなかつたので、手作りマスクはありがたいです。」「さんさん福袋を頂けて嬉しい。コロナに負けないで頑張ります。」等の声が聞かれた。利用者は、外出自粛の影響により自宅に閉じこもっていたり人と話す機会が減っていたため、世間話や日常生活での困りごとについて長く話をする人が多かった。さらに職員と話すことが出来て喜んでいる利用者も多かった。児童からのメッセージカードを同封したことで、児童と高齢者の世代間交流と児童クラブという他機関と共同して地域福祉の推進に取り組むことに繋がった。

今後の課題として、「さんさん福袋」を利用した見守り活動で利用者の体力の低下と日常生活での困りごとの増加が多く見られた。今後の事業の中で改善出来るような内容を考えていきたいと思う。



地域コーディネーターの日常  
～世間話から地域づくりへ！ダンベル大作戦始動！～

氏名 山家宗一朗  
蔵王町社会福祉協議会地域福祉係

## 1 はじめに

この記事をご覧の皆さんに、まずお話をさせていただきたいことがあります。これから紹介する内容は、最初から目的や狙いを決めていたものではなく、綿密な会議をして実施したものではありません。地域住民と、社協職員の日常のつながりから生まれた、週に1回集まってダンベルトレーニングを行う活動です。

このような内容をお伝えしてもいいのかと悩みましたが、住民の“やりたい”という思いを形にでき、それがコロナ禍における健康づくりにつながり、地域づくりにもつながる活動として、ご報告をさせて頂きます。

### <きっかけ～民生児童委員の退任>

蔵王町社協は、民生児童委員協議会の事務局を担当しており、日頃から地域で活躍する委員の皆さんと共に活動を行っています。

令和元年12月に委員の一斉改選があり、長年委員を務めてこられてきた多くの方々が退任されました。

N尾さん（男性）もその1人で、ご自宅の近くを通ると、きまって畑仕事をしており、通るたびに声をかけ、何気ない日常会話をしていました。そんなある時「委員をやめてから、人と会わなくなったなあ。今はコロナで集まる場もないし…」と肩を落としながら話すN尾さん。これはチャンス！と思い、「それじゃあ、我々で新たに何かしましょう！」と投げかけ、その「何か」をすることになったのです。



【地域で活躍する委員の皆さん】

### <アクション～ダンベルで男を磨く集いの場へ>

そこに民生児童委員OBの石Iさん（男性）も加わり、「打ち合わせ」と称し“世間話”を重ねました（コロナ禍のため、打ち合わせはいつも畑）。お二人とも高齢期における筋力低下を予防することの重要性や人とのつながりの大切さを理解している方々です。

「筋トレをしよう。コロナだから外でやろう！」あつという間に決まり、もともと蔵王町の民児協で非定期に開いていた“男の集い”（※）と連携し、現役の男性委員とOB



【発起人のお二人】

委員が集まり、今までやったことのないダンベルトレーニングを開催することとなりました。

(※) 男の集い⇒男性民生児童委員の資質向上のため行われる研修・交流の場です。

## 2 事業内容

この活動は『それぞれが、いつまでも好きなこと（旅行、ゲートボール、グラウンドゴルフ、農業、飲み会など）を続けられるように』をモットーに、今まで地域のため、人のために活動をしてこられた元民生児童委員のための健康維持活動です。

N尾さんと石Iさんが発起人となり、ダンベルトレーニングを行っています。遠刈田温泉で約20年間ダンベル活動を続けている「遠刈田友湯ダンベルサークル」の皆さんにご指導を頂いています。

遠刈田の皆さんとは、以前から社協とのつながりができておらず、ダンベルトレーニングを普及できなかいかと相談を受けていたところであり、うまく連携することができ、お互いに喜んでおります。



【活動場所は地域活動の場にしようと  
作られた社協人工芝コート】

活動名：「ダンベル大作戦！！」(仮)  
<現在、活動名は検討中>  
活動日：毎週火曜日（祝日はお休み）  
活動場所：社協人工芝コート  
参加対象：民生委員OB・OG  
現役の民生児童委員他  
(やる気があれば来るもの拒まず)  
内容：ダンベルトレーニング（全12種目）

令和2年5月26日（火）から活動がスタートし、毎週火曜日に欠かさず開催されています。雨の日は施設のベランダに一列になり行っています。回数を重ねるにつれ、参加者も増え、民生児童委員OB・OGの方々を中心に、現役民生児童委員の方々、遠刈田友湯ダンベルサークルの先生方、噂を聞きつけ、参加させてほしいという地域の方など、自らの健康のために集まっています。



最初は、「なぜ、このような筋トレ、集まりが必要なのか」をみんなで再確認し、「年を取っても体が弱くならないようにフレイル予防のため!」、「いつまでも元気に過ごせるようになるため!」、「やりたいことがいつまでもできるように!」と共に認識を図りました。

ダンベルトレーニング自体は30分ほどで終わりますが、終了後はそれぞれ、おしゃべりをしていく方もいれば、買物して帰るという方もいます。ダンベル活動が外出のきっかけになってきているようでもあります。最近では数人が残りゲートボールを楽しむ様子も見られています。また、施設ではデイサービスが行われており、利用者がダンベルなどの動きを見て、生き生きしている様子も伺うことができ、相乗効果が生まれています。

継続して行っていくうちに、自分たちの健康維持活動から、様々なつながりづくりの場、情報交換の場として発展してきています。

### 3 まとめ

<活動を続けての気づき・これからに向けて>

何気ない世間話の中からでた、個人の健康づくりの活動として始まり、今やダンベルトレーニングによる健康についての意識が高まってきています。健康だけではなく、様々なつながりや波及ができてきています。

#### 【情報交換・悩み相談から地域活動へ】

当初は民生児童委員OBが参加の中心となっていたが、現在では現役委員の方々も参加するようになりました。その中には、一斉改選で新たに委員になった方もいます。そんな新任委員の方が委員OBへ「介護保険の~」と質問を答えていた姿があり、そこから参加者が話し合い、“プチ”勉強会が始まるという場面が見られました。

ダンベルを通して集まり、かしこまらずに情報交換や委員活動においての相談ごとができる場として機能し始めています。

また、ダンベル歴20年以上の遠刈田友湯ダンベルサークルの皆さんとも良い情報交換ができます。長年活動してきた皆さんだからこそわかる、筋トレの重要性や効果などを毎回教えていただいている。

今後は、地域で活躍する委員の皆さん、そして委員は退任されても地域に関わり続けるOBの皆さんのが学び、地域へ還元ができる活動へつなげられるようにしていきたいと思っています。



#### 【住民との関係性】

今回の活動は、退任された委員の皆さんとつながり続けたことで生まれました。どんな時でも何気ない話ができる関係ができておらず、日常的な地域の話を伺うことができました。住民懇談会のような、地域の生活課題などを開催することも重要だと考えていますが、このような日常生活の場や活動の現場に我々が足を運び、キーパーソンとつながることも大切にしていきたいと思います。

また、ダンベル活動でキーパーソンとなる人たちが、週に1回社協に集まる機会ができたことは重要なことだと感じています。出向く、来てくれる、集うなど住民との関わりの場を多様なものとして、地域課題解決のきっかけづくりをしていきたいです。

### 【ニーズを把握する】

ダンベル活動を始めるきっかけは、民生児童委員を退任した方の何気ない会話から始まり、課題とまではいかないものの、退任して人と会う機会の減少と新型コロナウイルスの流行により“不安”を抱えていたもので、それは1人ではなく、何人かの人も同様に思っていたことでした

今回は不安というニーズを形にし、活動につなげることが出来たと思います。今後は住民の不安や地域課題などを、地域活動の場や日常生活の場へ出向いたり、懇談会などの住民の生活に関する様々な問題をみんなで共有する場を設けるなどして、「社協に相談したら何とかしてくれる」という住民の皆さんのがいを多様な人や組織とのネットワークによりキャッチしていきたいと考えています。

### 【自発性を引き出す話し合い】

ダンベルを始めるにあたり、発起人である二人とは何度か話し合いを行いました。ここで気を付けたことは、社協は「何かしてくれるのか?」とか「何をさせられるのだろうか?」ということよりも、「お二人が話し合う中に、自分も入れてもらう」、「住民同士の話し合いを側面的に支援する」というスタンスを取るように努めました。

不安に思っていることを語ることから始めてもらい、いかに自発性を促し、活動できるかを大切にしました。

話し合いとなると少し面倒くさいと思う人が多いと思います。私もそうでした。しかし、いかに主体的に地域づくりを考えるかは、住民同士が話し合うことからスタートするのだろうということを改めて学ぶことができ、今後の活動に生かしていきたいと思います。

今回は住民とのつながりにより不安（課題）を発見・共有し、話し合い、ダンベル活動者とつながり、結果としてダンベルトレーニングの実施に至りました。社協職員（コーディネーター）として、この過程の中で、住民の方々から多くのことを学ばせていただき、まさに地域から学び、住民に育てられていることを実感しています。

日常の生活課題は何気ない会話の中から、ふと現れるものもあります。それを見逃さ

ずキャッチすること、また普段話さないようなことを、上手に引き出すことも大事になってくると思います。

現在もコロナウイルス感染拡大防止対策が必要とされています。こんな時だからこそ、人とのつながりは重要なになってくると思います。今回のダンベルトレーニングはコロナ禍だからこそ、始まった活動です。コロナ禍でも、そうでなくとも住民がつながり、課題解決に取り組めるように、コーディネートを継続していきたいと思う今日この頃です。





## 『わたしの地域の支え合い活動・色麻町の地域力紹介』

### — 情報発信によるエンパワメント —

氏名 菅原 一杉

色麻町社会福祉協議会 地域福祉推進係 主事

#### 1 はじめに（事業の狙い・目的等）

色麻町内のそれぞれの地区には、自然発生的に生まれたコミュニティによる活動やサロンが存在しています。しかし、それらの活動は広く周知されることはなく、その価値を自他ともに知るすべがありました。今年度は、地域の活動に携わる人に誇りを持ってもらい、より一層の意欲を持って取り組んでいただくことと、他の地域への相乗効果を狙いとし、社会福祉協議会の広報誌で取り上げることにしました。

#### 2 事業内容

##### ① かつぱ夕市

かつぱ夕市は、色麻町役場前にある「かつぱ笑会」というイベントスペースを会場に、コロナ禍で客足が落ち込んってしまった町内の飲食店の看板メニューを、テイクアウトにして集め、販売する催しです。

企画したのは「やってみよう！しかままちづくりの会」の皆さん。スタッフはほとんどがボランティアでした。期間は、5月22日～6月26日の間の毎週金曜日。1日約40品目ほどあり、毎回ほぼ完売となりました。

コロナ対策として、マスク着用、会場に入る前にアルコールで手指消毒、会場入場人数を5人に制限するなどの工夫を施しました。



## ② きよみず花壇

清水地区には「きよみず花壇」という花壇があり、地域の皆さんで自主的に手入れをしています。手入れの合間にお茶を飲んだり、おやつを食べたりしながら、交流を楽しんでいます。中には、ここでの草取りが老後の運動不足解消になっている方もいらっしゃいます。



地域の皆さんで交流しながら行われる花壇の手入れ作業は、身体的な健康ばかりでなく、精神衛生的にも効果があると思います。外での作業ということで、コロナ予防に関しても、比較的安心感があると思います。



## ③ 上黒沢地区道路掃除

上黒沢地区では毎年、春・夏・秋に道路掃除を行っています。清掃当日は、午前5時半に地区集会所に集合して始まります。住民それぞれがホウキや鎌、草刈り機などを持参して行います。小雨決行。1時間すると、一旦お茶のみ休憩、だいたい7時過ぎに終了します。

今年は、コロナ禍の影響で、様々な行事が中止になり、住民同士が顔を合わせる機会が減ってしまいました。道路掃除は野外での活動ということで実施され、顔を合わせる貴重な機会となっています。約2時間の清掃活動が、交流の場となっています。



#### ④ 新耕会

新耕会は、新田地区にある45年続くサロンです。毎月10日に集まり、45年間一度も欠かすことなく続いてきました。元々は、青年団を卒団したメンバーで結成され、皆さん子どもの親だったので「親耕会」と名付けられました。やがて子どもたちが大きくなつて親の手を離れた頃に、新田地区を耕すという意味で「新耕会」になりました。

基本的には、夫婦で入会しているのですが、45年の間に、旦那さんや奥さんを亡くされた方もいらっしゃいます。独り身になって気落ちしてしまう時も、この会に来て世間話をしているうちに、前向きな気持ちになるそうです。



#### ⑤ アメニティー

アメニティーは、農家の皆さんと協力して、それぞれの野菜を集めた市場を運営している団体です。新鮮な野菜が安価で買えるということで、とても好評です。

アメニティーの野菜販売は、毎週土日と祝日に行われています。12~2月の冬季はオフシーズンとなり、販売は行われません。約10軒ほどの農家さんが出品しており、秋の収穫期には品揃えが豊富になります。



アメニティーの皆さんとは、本当に楽しそうに働いています。合間にはお茶飲みしながらお客様も交えながらお話しして、交流を楽しんでいます。



### 3 まとめ（地域福祉の推進にどう生かしたいか等）

広報誌で活動を周知することによって、他の地区の方からも、活動について聞かれることも増えたという声もありました。人に知ってもらうということは、惰性で続けていた活動だったとしても、もっとよくしようという意識を芽生えさせる効果があるように思います。自分たちでは当たり前になっていて気付くことができなかつた価値にも気付くことができます。そういうことが、自分の活動をより活性化していくのだと考えます。

また、他の地区の活動を知ることによって、自分たちの活動をよりよくするヒントも得られますが、刺激を受けてより意欲的に取り組むことにもつながります。

知ってもらうということは、地域活動の活性化、住民のエンパワメントに繋がると考えますので、今後も様々な活動を発掘し、広報活動に取り組んでいきたいと考えています。

『勢見ヶ森古墳公園山百合保存会とお達者サロン』  
～地域コミュニティーを繋ぐ活動～

氏名 千田 まさえ  
大郷町社会福祉協議会・生活支援コーディネーター

## 1はじめに

生活支援体制整備事業の推進にあたり、現在戸別訪問を行っています。

住民の皆さんからは、「コロナ禍の影響により、各種サロンや自主的に活動していた様々なグループも活動を自粛するようになり、外出したり地域の方々や友人と以前のようにコミュニケーションを図る機会が無くなっている」との話を伺いました。また、それにより体力の低下やあらゆることに対する意欲低下などの不安を抱えていることを知りました。

そうしたことから、すでに体調不良を訴える人も出始めしており、フレイル予防を進めていかなければならぬと訪問活動で強く感じました。

そこで、「このような状況下の中でも住民同士が安心して交流できる場を作る」ことに焦点を当て、自粛されている活動の再開や社会資源を生かした新しい地域活動を実施していく事を目標に、感染対策を取り入れた活動内容を住民の皆さんと一緒に考えるなどの支援を行っています。また、そうやって実施出来た活動を町内全域に周知することで、この動きが町内全域に広がっていく事を目指して活動を行っています。

## 2事業内容

「勢見ヶ森古墳公園山百合保存会活動支援」

勢見ヶ森古墳公園山百合保存会とは、近年訪れる人が少なくなった森林公園を「山百合の名所にしよう」と、町内に住む方が令和元年に設立した会です。町の許可を得て、山百合の移植や増殖と環境整備を令和元年から3年計画で行っています。

活動を進めていく中で、「ただ山百合を見るだけではなく、散歩コースなどを整備し高齢者の方々の体力増進の場にして欲しい」という想いも生まれ、その想いを知った介護予防事業担当者から、「コロナ禍で運動不足になっている方々に、勢見ヶ森古墳公園を散歩コースとして紹介したい」と提案があり、会長と話し合いをする 것을勧めました。

「住民に利用してもらえるなら」と会長の了承を得て、散歩コースの紹介をすることが決まり、その後利用者も増え山百合保存会の活動も少しずつ住民に広まっていきました。

また、現在は公園内の案内をしながら勢見ヶ森古墳公園と山百合の良さを伝えるなど、継続して利用してもらうため意欲的に活動しています。

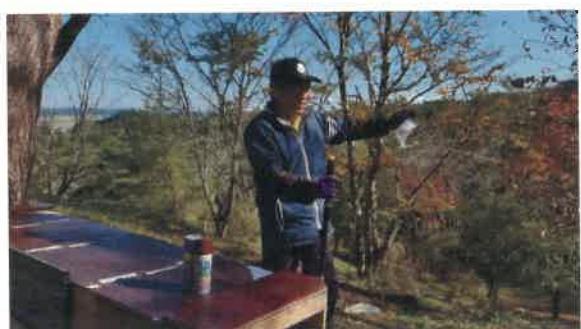


今年度は2年目でしたが、介護予防事業でコロナ禍でも活動できる場として、散歩コースが紹介されたことが宣伝にもなり多くの住民の方々が利用され、「来てよかったです。また来ますね」と言ってもらえたことで、今まで頑張って活動してきたことが住民の役に立てて良かったと話していました。

現在は、四季折々の草木を座ってゆっくり眺められるようにと、腰掛けを作っているところです。また、来年度までに休憩場所の設置や環境整備（木の剪定など）もしていく予定と楽しもうと話していました。



その他、町で行っている体力増進のためのウォーキングのコースを使ってもらえるように、迂回するコースを作るなど日々色々なことにチャレンジしています。



会長は当初から「3年計画の最後の年にイベントを行いたい」という想いがあり、先日現在の活動状況や会長の考え、想いを伺いながら、今後の活動について話し合いをしました。

イベントを、参加型（球根の移植）にすることで、一人で移植をしている会長の負担も減り、参加者は自分の植えた球根の花が咲いたかなと、楽しみに来てもらえるのではないかと考えていました。

また、子供達にも参加してもらえるような企画を来年度に向け一緒に考えていく事になっていきます。

### 「お達者サロン活動支援」

お達者サロンとは、大郷町内の概ね65歳以上の方を対象に地域のお世話役と住民が声をかけ合って参加者を募る、地区を限定しない自主活動のサロンです。お達者サロンではお世話役会の場を設定し、活動内容を共に考えるほかお世話役の担い手の育成も視野に入れつつ支援を行っています。

毎年、年6回の活動をしていましたがコロナ禍によって活動を自粛していました。国の規制緩和を受け、お世話役から今年度の活動について相談があつたため、話し合いの場を設けました。

話を伺うと、毎回大変な苦労をしながら活動内容を考えていた中で、さらに3密を避けての活動を考えることにとても苦慮している様子でした。その中でお世話役の一人から、「介護予防事業で紹介していた散策コースはどうか」と提案があり、今年度第1回目を実施することになりました。そこで、山百合保存会会長への交渉・調整や感染症対策用品購入などの役割分担を決め、実施に向け出来るだけお世話役のみで準備を進められるよう支援を行いました。



当日はあいにくの雨でしたが散策中には雨もやみ、山百合保存会会長のガイドで1時間かけて公園内を散策しました。石碑や幼少期の思い出話なども取り入れた説明を聞きながら山百合を堪能し、久しぶりに会う仲間との会話も楽しむ事ができた様子でした。

参加者の中には単位老人クラブの会長も参加していて、会としての活動をどうするか考えていましたところだったようで、「散策なら3密を避けられるし、みな楽しめるので会の活動として提案してみる」と帰りに話していました。さっそく翌週には山百合散策を実施し、とても好評だったと後日話を伺うことができました。

今年度第1回目の「勢見ヶ森古墳公園散策」で、感染予防対策を講じた活動を具体的に経験できたことで、お世話役の方から「そろそろ次の計画を考えたい」と話が出てきました。更に、「陶芸(ポーセラーツ)はどうか」との提案があったので、早々にお世話役会を開催しました。講師については、受講経験のあるというお世話役の方が依頼交渉するなど、計画内容が次々と決まっていき「自分達で出来る事はしていこう」という意欲が出てきたように感じられました。



当日の運営は、お世話役の方が中心になり準備・受付・司会を行い、準備の時には参加者も一緒にあって楽しく行っている様子が見られました。また、講師の紹介や進行をこなしながら作品もきれいに作られていました。



陶芸の講師から4～5人集まれば出張も可能であるとの話があり、今回の活動でコロナ禍での感染予防対策を参考にして、各参加者が自分の地域に戻り友人を誘い陶芸を始めとした活動につなげてほしいこと、またその際に分からぬことがあればお達者サロンのお世話役や社協職員が支援出来る事を伝えました。

このような取り組みを、体制整備事業で発行している広報誌などを通して町全体に活動紹介し、周知することで、住民主体の活動が広がっていく事を期待しています。

### 3まとめ

今回、勢見ヶ森古墳公園山百合保存会はお達者サロンと繋がった事で、単位老人クラブとも繋がる事ができ、11月には町の「放課後子ども教室」が小学生向けに散策会を開催する予定になっているなど、徐々に勢見ヶ森古墳公園山百合保存会と各活動の繋がりが増えています。

また、お達者サロンも勢見ヶ森古墳公園での活動を通して、出来ないことの多い環境の中でも「出来る事がある」という事を学んだことで、意欲的に活動に取り組む様子が見られるようになりました。

そうしたことから、住民主体の活動を活性化させていくためには、住民自身が楽しみながら各自で興味を持ち取り組む意識を持つことが大切だと思いました。

今までのように支援者側から提案をしていくだけの支援や今ある活動に繋げる事だけではなく、住民の「やりたい」ことが増えるような支援をしていく事で、出かける場やコミュニケーションを図る機会が増え、フレイル予防や地域資源を増やすことにも繋がると考えます。

また、各自の気づきを促すようなワークショップなどを取り入れていく事で、住民の気持ちを活性化させていく事も出来ると考えています。

今後も住民の主体性のある活動の一助になるように、活動内容などを一緒に考える場や、住民への気づきの場を設けるなどの伴走型の支援をしていきたいと考えています。



## 地域コーディネーター活動実践事例提出資料

# コロナ禍における 地域福祉活動の実践事例

社会福祉法人 美里町社会福祉協議会



## 美里町の沿革

令和2年4月1日現在

- |       |         |                    |
|-------|---------|--------------------|
| ◆人口   | 24,236人 | ◆66行政区             |
| ◆世帯数  | 9,197世帯 | ◆小学校6、中学校3、高等学校2   |
| ◆高齢化率 | 34.8%   | ◆16地区社協（小牛田5・南郷11） |

### ◆位置と地勢

美里町は平成18年1月1日、宮城県北東部に位置する遠田郡内の小牛田町・南郷町の2町が新設合併して生まれた町です。

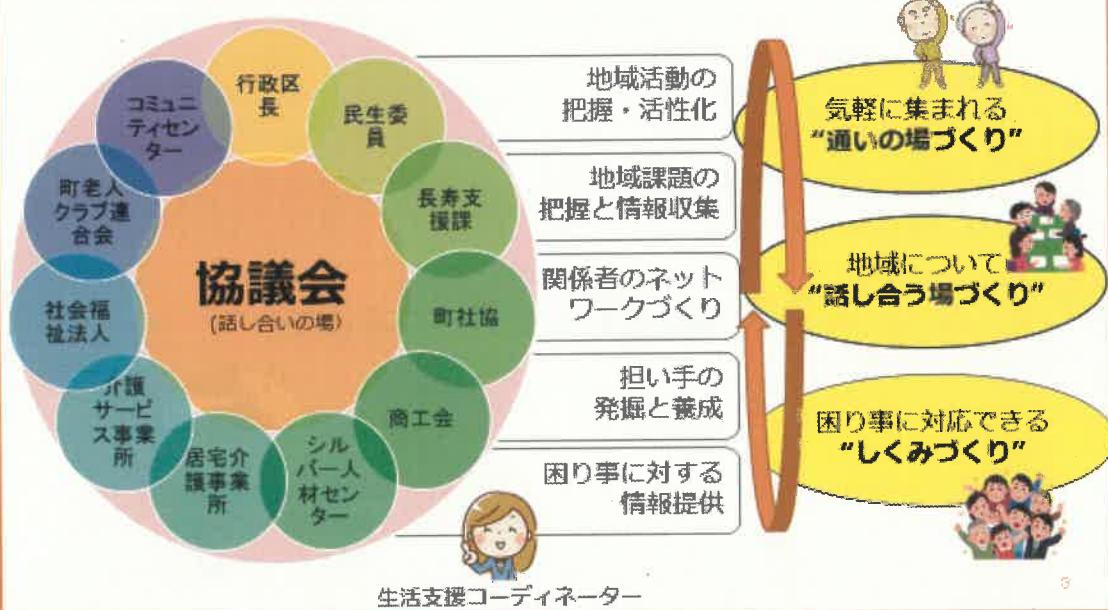
県都仙台市とは40kmの距離にあり、東北本線、陸羽東線、石巻線が交差する交通の要衝となっています。2本の国道も走り、交通アクセスのよさから、仙台市・石巻市・大崎市の通勤圏として定住する皆さんも多く、宅地開発も盛んです。

気候は冬季の降水量が少なく、降雪期間も比較的短いことから、とても住みよい条件下にあります。鳴瀬川、江合川が町内を貫流し、この水利に恵まれた農業が、町の基幹産業となっています。土地は平たんで、約75キロ平方メートルに及ぶ町の面積の約70%を豊かな水田や畑が占めています。宮城県の食糧基地として、コメや野菜はもちろん、果樹や施設園芸も、たいへん盛んです。



## 平成29年度(2017年)から 美里町より生活支援体制整備事業を受託

～美里町生活支援体制整備協議会と生活支援コーディネーターのイメージ～



これまで、人が集い・ふれあい・顔を合わせ  
交流することで、支え合いの地域づくりを推進。



平成29年度 啓発事業



支え合い情報紙  
おげんきですか。



平成30年度 啓発事業



地域福祉力UP情報交換会  
～地域のお宝再発見！～



地域福祉力UP情報交換会  
～地域のお宝再発見！～

しかし、今年はコロナの影響で  
人が集い・ふれあい・顔を合わせ  
交流することが困難に…。



これまでの方法では  
支え合いの地域づくりができない！



社会福祉協議会として  
生活支援コーディネーターとして  
できることは何か…。



## コロナ禍の取組み その①

例年開催していた「一人暮らし高齢者交流事業“さくら会”」

(春はお花見・秋は日帰り旅行)

今年は、コロナの影響で中止にすることに。



アンケート結果調査

ぜひみんなの意見を教えてください（質問をもじり）

①自粛期間(例:2ヶ月)中の体調状況はいかがですか？  
落ち着いた。→改善より悪くなった

②誰かや家族など、お世話を担当してもらっているですか？  
はいあり。→親しい友人。→ほとんどない

③介護と支援する担当者(相談窓口)はどちらに連絡を取りますか  
直接軽い。→他のごく近く。→ほとんどない

④その他、他に困った事や問題点などございましたか？

少しあ。過去に軽い災害にして、避難所や子どもたちをかき分ける手配など、未だ健在にしておいて下さい。あと、お年寄りの方々、「のんびりお出で下さい」とお断りされたりして困っています。  
はいあります。もう少し

専門相談: [ ]  
専門相談: [ ]

地域からご寄付頂いた  
手づくりマスクを同封し、  
地域と高齢者のつながりをお手伝い。



そこで…、コロナ禍のひとり暮らし高齢者の  
状況を把握するため、  
「アンケート」と「かわら版」の発行を実施。

## ～取組み その①の効果～

手づくりマスクを通して  
人が人を想う優しい  
キモチも一緒にお届け。

◆アンケート調査結果◆	
※前回開催(4月～)は他の体調悪い方ですか？	
・いいえ・OK前より悪くなかった。	
・多少あるなど、外出する場合はどちらいられますか？	
・私は毎日・週に2～3回・れんどない	
・介護者と出かける場合(電話会話)はどちらいられますか？	
・OK前より・週に2～3回・ほとんどない	
◆その他、最近の出来事や近況、周りとおどり等お聞かせください(1ヶ月前～現在)：(選択肢)	
・感染症や感染予防についてよく聞く・しない・選ばない	
・外出自粛の影響で、仕事や生活に困る・困らない	
・子供の学習環境が悪化する・よしとしない	
・地域・福祉教育の一環として、地域の方や子どもたちから学術などを教えてもらえて嬉しいですか？(選択肢)	
・はい・いいえ	
◆行動基準：(	1)
◆お名前：(	1)

◆アンケート調査結果◆	
※前回開催(4月～)は他の体調悪い方ですか？	
・いいえ・OK前より悪くなかった。	
・多少あるなど、外出する場合はどちらいられますか？	
・私は毎日・週に2～3回・れんどない	
・介護者と出かける場合(電話会話)はどちらいられますか？	
・OK前より・週に2～3回・ほとんどない	
◆その他、最近の出来事や近況、周りとおどり等お聞かせください(1ヶ月前～現在)：(選択肢)	
・感染症や感染予防についてよく聞く・しない・選ばない	
・外出自粛の影響で、仕事や生活に困る・困らない	
・子供の学習環境が悪化する・よしとしない	
・地域・福祉教育の一環として、地域の方や子どもたちから学術などを教えてもらえて嬉しいですか？(選択肢)	
・はい・いいえ	
◆行動基準：(	1)
◆お名前：(	1)

コロナ禍のひとり暮らし高齢者の生活状況から

- ①外出自粛によるフレイル予防の必要性
  - ②交流の機会の減少によるつながりの希薄化
- が課題であることがわかった。

## コロナ禍の取組み その②



町内の福祉事業所 (有)福寿のリハ職と連携し、  
コロナ禍の運動不足解消やフレイル予防を目的に  
「らくらく体操」を考案。  
広報紙やYouTubeにアップし啓発。

## ～取組み その②の効果～



地域の集まりなどで  
介護・フレイル予防の啓発とともに  
らくらく体操を実施。  
実施後のアンケート結果からも  
「これなら自宅でもできそう！」との声が。

## コロナ禍の取組み その③



美里町地域包括支援センター・(有)福寿のリハ職と  
タイアップし、いきいき百歳体操研修会を実施。  
地域の「やってみたい！」の声を応援！

## ～取組み その③の効果～

これから3か月間、  
毎週月曜日に活動します！



百歳体操モデル事業に取り組む桜木町行政区

いきいき百歳体操モデル事業を通して  
新たに通いの場ができた。  
コロナ禍の生活不活発病やフレイル予防に加え  
人と人が交流する場に。

11

## ～取組み その③の効果～



百歳体操後のおしゃべりタイム



百歳体操後のレクリエーション

健康面の効果を実感するとともに  
新たな出会いから 地域のつながりも芽生え  
自然と役割も生まれ始めてきた。

12

## コロナ禍の取組み その④



令和元年度に実施した「くらしのサポーター養成講座」受講者を対象に「情報交換会」を開催。コロナの影響もあり、①中埠地区、②不動堂・青生地区、③北浦・小牛田地区、④南郷地区の4会場で実施。

## ～取組み その④の効果～

中埠地区では、地域課題となっている  
“移動手段”的問題が話題に。  
まずは、今あるものを活用しよう！ということで  
“住民バス乗車体験会”を企画。  
今後は、地域オリジナルの時刻表を作成する予定。



エリアごとに開催したことで、  
くらしの環境が同じだからこそ  
分かり合えることもあり、  
より地域に密着した話し合いを行うことができた。

## コロナ禍の取組み その⑤

新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた  
地域福祉活動の進め方

“3つの密”にならないように

・密接しない  
・密接しない  
・密接しない

「3つの密」の握手、咳きこぼれなども避けて地域福祉活動を進めてください。

1. 地域や団体で会う心配が少ない場合は、原則として会員登録を実施しない。  
2. これまで手洗い、十分な距離離れて会話をしない。  
3. 会場はドアと窓なし、換気扇が止まなくて会話をしない。  
4. 大勢で会食しない、飲み物を1つずつ注ぐなどして飲む。  
5. 個別訪問は実施せず、電話連絡を用意する。

お問い合わせ人見澤玲子(社会福祉課) / 斎藤弓子(災害対策課)  
TEL: 03-3210-9012 / FAX: 03-3210-9010  
郵便: 〒112-0014 東京都文京区本郷2丁目17-4 (東京都社会福祉施設センター内)

例えは、こんな“つながり”を維持する活動はどうでしょう。

・野外で身体を動かしてつながろう! → フィットネスクラブやヨガ室、自転車会社、徒歩会など。  
・地域活性化イベント → 地域活性化イベントや祭りなど、地域活性化イベントなど。  
・少人数でもつながろう! → フィットネスジムなどは、1回30分の時間枠を設けたり、事前に予約を取らなければ入れないなど。  
・地域の有志による本格的なボランティア活動(セーフな立派なボランティア活動など)。  
・お手伝い会議など → 地域でつながるお手伝い会議など。  
・地域活性化会議など → 地域活性化会議など。  
・地域の団体や団体つながり → 地域の団体や団体つながりなど。  
・地域の団体によるつながり → 地域の団体によるつながりなど。  
・地域活性化会議など → 地域活性化会議など。  
・地域活性化会議など → 地域活性化会議など。

コロナ禍の「地域福祉活動のすすめ方」について  
チラシを作成。行政区、地区社協、地域団体、  
ボランティア団体などへ配布し周知した。  
15

## コロナ禍の取組み その⑥

地域福祉活動の進め方ガイドブック  
“3つの密”にならないように

・密接しない  
・密接しない  
・密接しない

新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた  
地域福祉活動の進め方ガイドブック  
お問い合わせ人見澤玲子(社会福祉課)  
TEL: 03-3210-9012 / FAX: 03-3210-9010

地域福祉活動の進め方ガイドブック  
“3つの密”にならないように

・密接しない  
・密接しない  
・密接しない

新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた  
地域福祉活動の進め方ガイドブック  
お問い合わせ人見澤玲子(社会福祉課)  
TEL: 03-3210-9012 / FAX: 03-3210-9010

地域福祉活動の進め方ガイドブック  
“3つの密”にならないように

・密接しない  
・密接しない  
・密接しない

新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた  
地域福祉活動の進め方ガイドブック  
お問い合わせ人見澤玲子(社会福祉課)  
TEL: 03-3210-9012 / FAX: 03-3210-9010

「地域福祉活動の進め方ガイドブック」を作成。  
活動再開する際に活用できるよう、より具体的な内容に。  
再度、行政区、地区社協、地域団体、  
ボランティア団体 などへ配布し周知した。  
16

## ～取組み その⑤⑥の効果～



少しずつ活動再開に向けた相談も増え、  
地域活動が再開し始めた！

## コロナ禍の取組み その⑦



地域活動を再開したグループを取材し、  
「地域の“つながる”実践事例」として動画を作成。  
地区社協・民児協などの研修や会議で動画を上映。

## ～取組み その⑦の効果～

町内でもいろいろなアイデアで  
地域活動を再開しているんだ。  
うちの地域でも検討しようかな。

中止にすることは簡単だけど、  
このままでは地域のつながりが  
希薄になってしまふ。  
何かできないかなあ。

地域行事を中止にした代替えを  
みんなで考えることも大切だよね。

**地域の事例に刺激を受けたり、参考にしたり。  
地域の活動状況を他の地域へ伝えることで、  
様々な波及効果が生まれてきた。**

19

## まとめ

### ☆コロナ禍の中で気づいた“つながり”。

コロナ禍の中、改めて人との“つながり”が私たちの生活を豊かにし、ふだんのくらしの安心につながっていたことに気づいた。

### ☆コロナに立ち向かう“工夫・アイデア”。

今後は、新しい生活様式を取り入れながら「一人ひとりが、おたがいに気にかけあい、つながりあう」工夫やアイデアを地域や様々な団体とともに考え、これからくらしに合った新しい支いあいの地域づくりを推進していく。

20

結がもたらす地域づくり～続けること・信じること～  
生活支援コーディネーターが行く！

社会福祉法人南三陸町社会福祉協議会

コロナ禍において南三陸町社会福祉協議会が実践したこと

# 結がもたらす 地域づくり

～続けること・信じること～

繋  
つなぐ  
つなげられたい

生活支援コーディネーターが行く！

世界中が見えない相手と戦う  
小さな町の小さな取り組み



# VS コロナ

でもぬしまを創れる  
関わり、つながりを切らないアイディア



子どもも大人もヨーヨーキルトでのれんづくり

170人の思いが形になった瞬間。



## コロナ禍の楽しみ第2弾も完成



見る人もほっこり  
携わる喜びもひとしお  
のれんのような  
長いお付き合いの形が  
結の里にはある



## 情報誌の定期発行 目から伝えるあたたかさ



令和2年4月は非常事態  
につき2回発行。  
今まで毎月1,000部発行  
「誰か」とつながる安心を  
お届けしています。

不穏な状況が少しでも  
緩和されたらとの願いを  
込めて…⑪



## 幸せ探し隊の出動



住民が上を向いて暮らしていくよう生活支援コーディネーターはちょっとだけおでつて。一緒に活動することで、その思いが伝わり事態が未然に防げることもあるのです。

散歩しながら四つ葉のクローバーを探す事、見つけたクローバーを押し花しおりにしてお返しする事。何気ないやり取りですが、この状況下において、あなたの顔を見るためには大切な作戦でした。会えて良かった～♪またやろうね。

## 生活支援コーディネーターは

1人じゃない！  
どんな状況下であっても  
考えることをあきらめず、チーム  
みんなで取り組み続けること  
向かう先を共有することが大事なんだ





生活支援コーディネーターは  
今日も行く！

震災、コロナ、何があってもゆるがない  
これまでの時間で「**結**」の真意を学び、  
これからも、住民とともに何事にもめげず  
地域づくりを発信していきたい。



【参考】

## 実施要項

東北学院大学地域連携センター・宮城県社会福祉協議会共催  
C S W公開研究会「災害公営住宅自治会等活動実践事例集」の編さん  
実 施 要 項

**1 名 称**

災害公営住宅自治会等活動事例集の編さん 一新たな時代と向き合う知恵を探る一

**2 目 的**

東日本大震災では、多くの住まいが失われ、災害公営住宅や集団移転地区が新たな住まいの場となるに伴い、自治会を中心に新たな関わりの場づくりに向けた試行錯誤が重ねられています。

急ごしらえの自治会は、住民の高齢化や単身世帯の割合が高い中で、安心・安全の住まいづくりに様々な試行錯誤を繰り返し奔走しています。昨今のコロナ渦下においてもそれぞれ工夫を重ね、活発に活動を展開している自治会も多く存在しています。

ついては、これらの取り組みに込められた知恵を共有し、広く啓発することを目的として、「実践事例集」を編さんするものです。

**3 応募想定対象者・団体・機関**

\* 災害公営住宅が設置されている市町を対象として募集します。対象とならない市町村につきましてはご注意下さい。

- ・災害（復興）公営住宅ならびに周辺地区自治会活動の役員及び住民
- ・国、県及び市町灾害（復興）公営住宅支援担当者
- ・災害（復興）公営住宅支援に関わる LSA（生活援助員）、生活支援コーディネーター
- ・市町村社会福祉協議会地域福祉推進担当者
- ・地域包括支援センター
- ・災害（復興）公営住宅住民支援団体（NPO、ボランティア団体、住民自治組織）

**4 募集内容**

(1) 執筆内容

- ・災害公営住宅コミュニティ構築等に関する実践事例
- (2) 執筆文字数（写真・資料を含む）最大 8,000 字（A4 版 5 枚程度）
  - ・文章、パワーポイント資料、いずれでも構わない
  - ・文章による投稿の際は、基本フォーマットを提供する
- (3) 提供媒体
  - ・デジタルデータで提出して下さい

東北学院大学地域連携センター・宮城県社会福祉協議会共催  
C S W公開研究会「地域コーディネーター活動実践事例集」の編さん  
実 施 要 項

**1 名 称**

地域コーディネーター活動実践事例集の編さん —持続可能性を支える地域資源の発掘—

**2 目 的**

地域生活を支える様々な仕組みは、社会・経済の進展に伴いその多様性を増し、その多様性が故に行政だけではそのニーズに応えることは難しく、それぞれの地域に最適化した住民自らの手による仕組みづくりが求められています。こうした現状の中で、様々な資源を組み合わせ、地域課題に取り組んでいる地域コーディネーター（CSWer）の先駆的な事例が県内あちこちでみられます。昨今のコロナ禍下においても様々工夫を重ね、活発に活動を展開している CSWer も多くいます。

については、これらの取り組みに込められた知恵を共有し、広く啓発することを目的として、「実践事例集」を編さんするものです。

**3 応募想定対象者・団体・機関**

- ・災害（復興）公営住宅ならびに周辺地区自治会活動の役員及び住民
- ・国、県及び市町災害（復興）公営住宅支援担当者
- ・災害（復興）公営住宅支援に関わる LSA（生活援助員）、生活支援コーディネーター
- ・市町村社会福祉協議会地域福祉推進担当者
- ・地域包括支援センター
- ・地域活動支援団体（NPO、ボランティア団体、住民自治組織）

**4 募集内容**

(1) 執筆内容

- ・地域コミュニティの活性化等に関する実践事例
- (2) 執筆文字数（写真・資料を含む）最大 8,000 字（A4 版 5 枚程度）
  - ・文章、パワーポイント資料、いずれでも構わない
  - ・文章による投稿の際は、基本フォーマットを提供する
- (3) 提供媒体
  - ・デジタルデータで提出して下さい

～編さん～

東北学院大学地域連携センター・社会福祉法人宮城県社会福祉協議会